LCP128™

調光・スイッチシステム

LUTRON®

セットアップ・取扱説明書

目次

はじめに・システムスタートアップ

ページ
本説明書のご使用方法 4
システム仕様 5
システムスタートアップ・チェックリスト 7
制御装置の概要 9

ステップーバイーステップのプログラミング手順説明

ページ
概要 14
ステップ1: 調光盤を設定する 15
ステップ2: タイムクロックを設定する 22
ステップ3: シーンを編集する 27
ステップ4: コントロールステーション 29
ステップ5: タイムクロックイベント 40
ステップ6: 調光盤接点入力 46
ステップ7: 非常時電源モード 50

参考情報

ページ

参照機能
手動制御 53
LCPコントローラのロックまたはロック解除をする 57

トラブルへの対応
トラブルへの対応 59

メンテナンス
メンテナンス 64

用語解説
用語解説 65

表
調光盤表 66
モジュールタイプ表 70
負荷タイプ表 71
コントロールステーション配置表 72
コントロールステーション表 73
タイムクロックイベント表 75

保証規定 76
連絡先 76

本説明書のご使用方法

このプログラミング説明書は大きく3つの部分に分かれています。

- はじめに - ここでは、システム仕様、電気工事事業者スタートアップチェックリスト、LCPコントローラの概要と使用方法が記載されています。
- ステップ・バイ・ステップのプログラミング手順説明 - システムに必要なプログラミングを順を追って説明します。
- 参考情報 - システム設定の手動変更やLCPコントローラのロックまたはロック解除など、システムのプログラミング後に行うことがある追加手順を説明します。この章には、トラブルへ対応やシステムメンテナンス、用語集、システム計画表も記載されています。

*LCP128*システムをプログラミングするにあたって、次の主要項目を確認してください。

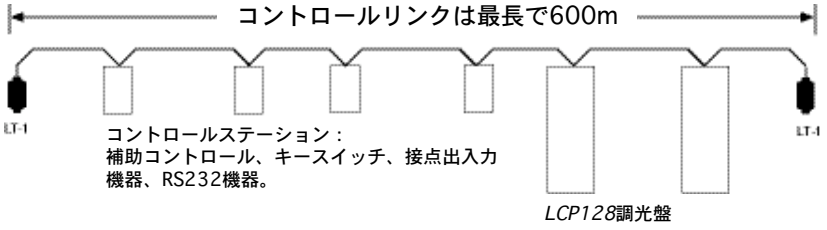
- システムにあるLCP盤数、また各盤にある回路数。
- システムにあるモジュール数とモジュールのタイプ。
- 負荷のスケジュール。
- 各補助コントロールとキースイッチの位置、各ボタンやキー回転で操作する機能。
- 各接点入出力で操作する機能。
- タイムクロックの機能。

この説明書をよくお読みになってから、システムのプログラミングを始めてください。

この説明書の裏面に、上記の事項を記入する表があります。記入後、必要に応じてシステム使用者にコピーを渡してください。

注意: *取付および配線については、該当するLCP盤の取付・取扱説明書をご覧ください。*

システム概要図



システム仕様

*LCP128*は商業施設用に設計された調光システムです。最大8面のLCP盤と最大32台のコントロールステーションで構成されます。コントロールステーションとは、補助コントロール、キースイッチ、接点入出力機器(OMX-AV)、接点出力機器(OMX-CCO-8)、シアターコントロールインターフェース(ODMX-512)、ビル管理システムインターフェース(OMX-RS232)などです。すべての調光盤やコントロールステーションはデジタル補助コントロールリンクで接続されます。配線の詳細については、該当するLCP盤の仕様書等をご覧ください。その他のシステム仕様は次のとおりです。

タイムクロック

- 7つの週間スケジュール。
- 最大で40日までの祝祭日スケジュール。
- 祝祭日スケジュールはそれぞれ1～90日で設定できます。
- 500までのタイムクロックイベント。
- 一日に最大で25のタイムクロックイベント。
- 最高32シーンおよび1オフシーン。
- タイムクロックイベントやコントロールステーションでの入力で、オン・オフする回路を選択したり、調光回路を特定の調光レベルに設定したりできます。
- タイムクロックイベントは特定の時刻に設定することも、毎日の日の出/日没の時刻に合わせて(天文時計による)設定することもできます。
- イベントは週間スケジュールに設定することも(例えば、毎週月曜日に実施など)、祝祭日に設定することも可能です (例えば、元旦に実施など)。
- 祝祭日の設定は週間スケジュールの設定に関わりなく作動します。
- タイムクロックイベントで、業務時間外モードの開始や終了もできます。業務時間外モードとは、オフに設定されている照明が一定時間後に自動的にオフになる節電モードです。業務時間外モードはどのコントロールステーションからでも、手動で一時的に設定変更をすることができます。詳細についてはステップ5をご覧ください。
- タイムクロックイベントはコントロールステーションのオン・オフもできます。

コントロールステーション - 補助コントロール

補助コントロールのボタンは次の動作を行うように、それぞれ設定できます。

- シーンを選択したり、カスタムシーンを設定する。シーンとは、オン・オフや単数/複数回路の調光などを自動的に行う、プリセット照明レベルの組み合わせのことです。補助コントロールボタンが押されると、指定した回路がプログラミングされたシーンを開始します。
- 照度を調整する。ボタンが押されている限り、照度が徐々にアップまたはダウンします。新しいイベントやコントロールステーションからの新たな入力があるまで、照度の設定は変更されません。
- 回路をオンまたはオフする。ボタンを押すと、回路のオン・オフが切り替わります。回路に両方の状態がある場合は(一部がオン、一部オフ)、照明は点灯します。
- 時間差オフ。ボタンを押すと、あらかじめ設定した一定時間経過後に回路がオフになります。
- タイムクロックをオンまたはオフにする。

コントロールステーション - キースイッチ

- キースイッチ(NTOMX-KS)は、時計回りまたは反時計回りで、補助コントロールのボタンと同じ働きをするようにプログラミングすることが可能です。

コントロールステーション - 接点入力

各*LCP128*制御装置につき、2つの接点入力が可能です。LutronのOMX-AVコントロールステーションを追加すれば、さらに追加できます。(補助コントロールリンク上であればどこでも、OMX-AV 1 台につき5つの入力を追加可能)。

- 接点入力は接点を開閉することで、補助コントロールのボタンと同じ機能を果たすようにプログラミングできます。
- シータッチ™補助コントロールには接点入力が2つあります。

コントロールステーション - 接点出力

Lutron OMX-CCO-8(1台につき8出力)を使用し、接点出力を追加することができます。どちらのコントロールステーションも、補助コントロールリンク上のどこにでも追加できます。

- 各接点は一時的な操作も、継続も可能です。
- 各接点出力に、補助コントロールボタンやキー回転、接点入力、タイムクロックイベント、非常時状態にプログラミングした動作を指定することが可能です。

RS232による統合

*LCP128*システムは、Lutron RS232インターフェース(OMX-RS232、OMX-CI-NWK-E、OMX-CI-RS232)を使用して、ビル管理システムに組み込むことができます。

シアターDMX調光卓の統合

*LCP128*システムは、Lutron社のODMX-512インターフェースを使用すれば、シアター調光卓やステージボードからのDMX入力を最大32まで制御できます。

非常時電源モード

*LCP128*調光盤が非常時電源モードになった場合は(通常の給電が途切れたら)、回路は非常時設定に切り替わり、LCPコントローラが非常時電源モードを解除するまで(通常の給電が回復するまで)、その設定を維持します。非常時電源モードの間は、コントロールステーションの入力やタイムクロックイベントは全て無効になります。

非常時電源モードは次のように起動します。

- 調光盤間の非常時感知線。この方法では、システムに2つ以上の調光盤が必要です。通常給電盤と、非常時給電盤が少なくとも各1台以上システムに必要です。通常給電盤への給電が途絶えた場合、非常時給電盤が非常時モードに切り替わります。制御装置底面にある通常/非常時スイッチを正しく設定してください。
- Lutronの非常時照明インターフェース(LUT-ELI-3PH)やUL924規格適合機器が、通常給電の3位相(3PH)について通常電源線を検知します。電源位相がひとつでも失われると、LUT-ELI-3PHが*LCP128*コントローラに信号を送信します。*LCP128*コントローラが通常/非常時スイッチが非常時に設定されていれば、非常時照明シーンまたはプログラミングされた照度が起動します。

非常時照明に関する詳細は、アプリケーションノート106番をwww.lutron.comでダウンロードし、ご確認ください。

電気工事業者向けLCP128™システムスタートアップ・チェックリスト

重要な注意点：

次のチェックリストの記入を完了させ、*LCP128*システムが起動可能な状態であることを確認してください。

- ❑ *LCP128*調光盤とコントロールステーションが、取付・取扱説明書に従って取付けられている。
- ❑ 補助コントロールが取付・取扱説明書に従って調光盤に接続されている。
- ❑ 給電および負荷が取付・取扱説明書に従って配線されている。
- ❑ すべての負荷回路がバイパスモード(バイパスジャンパーが取付けられている)で作動し、正しくかつ常に点灯している。
- ❑ バイパスジャンパーが取外され、全ての回路が出荷時設定の非調光負荷タイプとして起動されている。
- ❑ 各調光盤の負荷スケジュールが完了している。
- ❑ 各回路の負荷タイプが正しく指定され、記録されている。

上記のチェックリストへの記入が完了したら、各調光盤の負荷スケジュール表とともに、Lutronフィールドサービスへファックスしてください。(FAX番号:03-5575-8420)。

署名: _____ 作業名 _____

作業日: _____ Lutron作業番号: _____

氏名: _____ 起動予定日: _____

電話番号: _____ スタートアップ予定時刻: _____

ファックス番号: _____ 現場番号: _____

部品表(LCP盤、コントロールステーションなど):

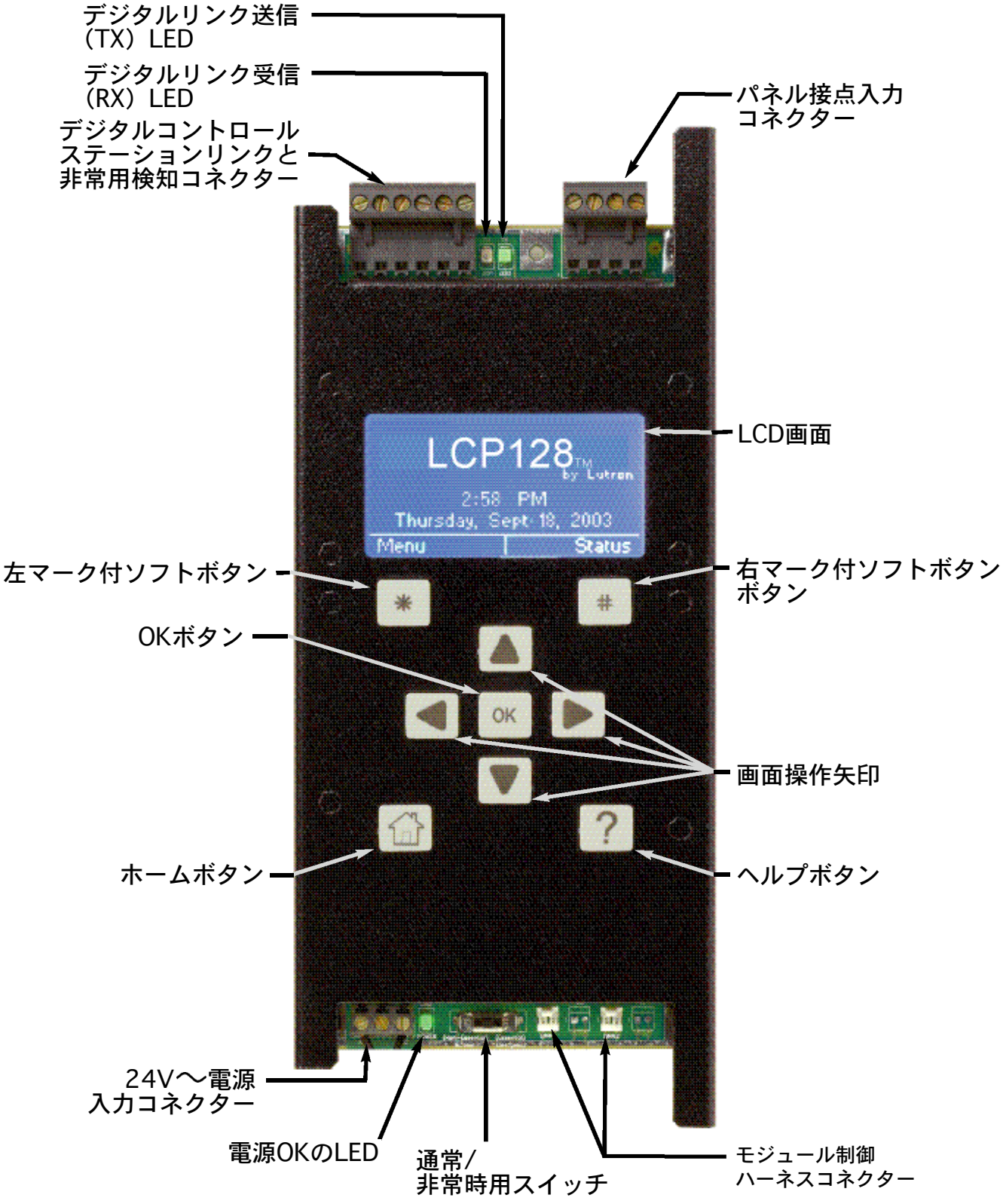
_____ 数量 _____

_____ 数量 _____

_____ 数量 _____

ルートロンアスカ株式会社
東京都港区赤坂1-9-20
第16興和ビル南館4F
Tel: 03-5575-8420

LCP128™コントローラ各部の名称



画面操作

*LCP128*コントローラでは画面操作や選択、数値設定などを行う際に特定の手法を用います。本章をよくお読みになってから、LCPコントローラでシステムのプログラミングを行ってください。

*LCP128*コントローラはLCD画面の下に9つのボタンがあります。下表でそれぞれの機能を確認してください。

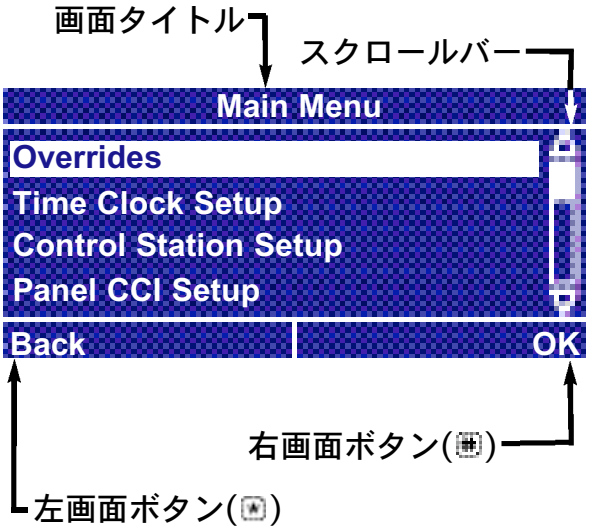
ボタン	機能
▲ ▼ ◀ ▶	画面を操作し、カーソル位置の数値を変更します
OK	項目を選択します
*	左画面対応ボタン - 機能は画面に表示されます
#	右画面対応ボタン - 機能は画面に表示されます
⌂	ホーム画面に戻ります
?	ヘルプ画面表示

画面

*LCP128*コントローラにあるすべての画面は次の通り、共通したレイアウトで表示されます。

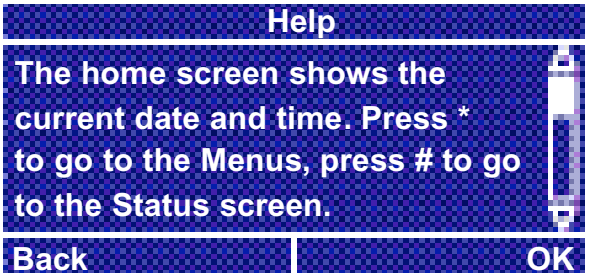
- 画面のタイトル
- 左右画面対応ソフトボタン
- スクロールバー（画面の表示領域を超えた場合のみ表示されます）

右図の例ではメインメニューを表示しています。スクロールバーは、このメニューには画面に表示し切れない情報があることを示しています。▼ を繰り返し押す(または押し続ける)と、メニューがスクロールし、他の情報を表示します。スクロールバーのスライダーはメニューの中で現在画面に表示されている部分を示しています。



ヘルプ

表示中の画面に関するヘルプは?ボタンを押していつでも呼び出せます。画面表示領域以上の情報を見るには ▲ と ▼ でテキストをスクロールします。OK または *、# を押せば、前画面に戻ります。



ホーム画面へ戻る

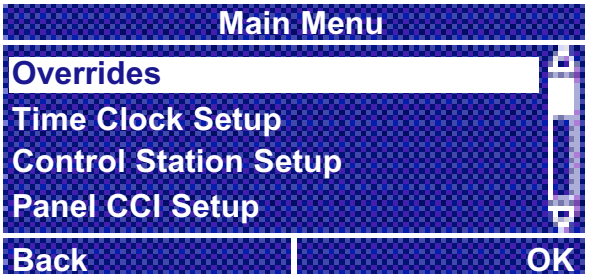
を押せば、どの画面からでもホーム画面に戻れます。

メインメニューにアクセスする

ホーム画面からメインメニューに進むには、 を押します。パスワードが設定されている場合は、先へ進むまえに入力する必要があります。(本説明書の参照項目にあります「制御装置のロック・ロック解除」をご覧ください)。

メニューのナビゲーション

メニューでカーソルを移動するには および を、項目を選択するには または (OK)を押します。 を押すと、その項目に対するヘルプが表示されます。前画面に戻るには (戻る)を押します。



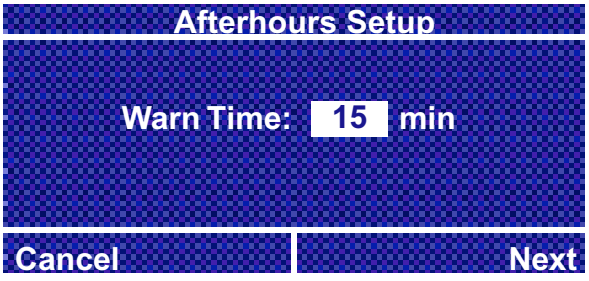
データ入力

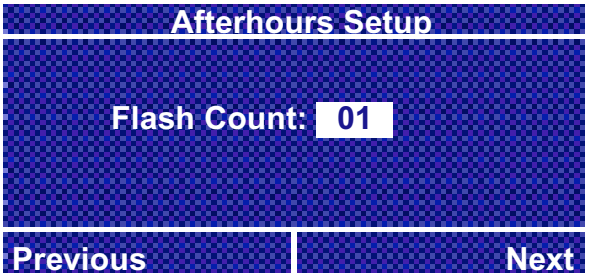
各機能に必要なデータをプログラミングする際は、ひとつまたは複数の画面を使用します。

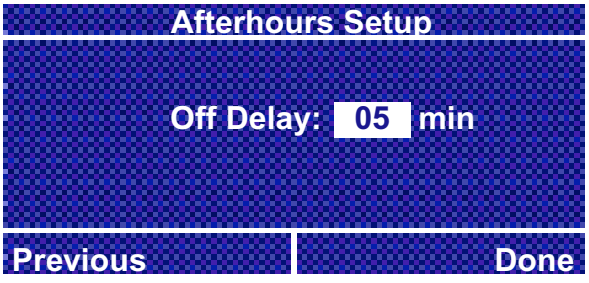
1つの画面だけで操作が終わる場合は、画面ボタンの「キャンセル」と「完了」が画面に表示されます。

操作画面が複数にわたる場合は、最初の画面に、画面ボタン「キャンセル」と「次へ」が表示されます。途中の画面には、画面ボタンに「戻る」と「次へ」が表示され、最後の画面には「戻る」と「完了が表示されます。

***注意:**「完了」が押されるまで、LCP128のシステムデーターベースにはデータが保存されません*

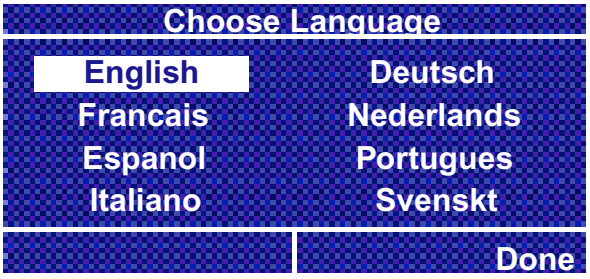






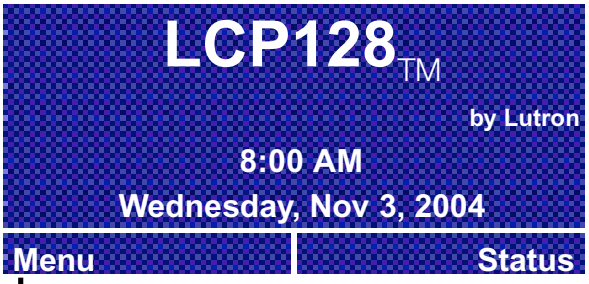
言語選択画面

LCPコントローラにはじめて電源が入ると、まず言語を選択する画面が表示されます。画面操作矢印で、ご使用の言語を選択し、 または (完了)を押してください。



起動する - ホーム画面

- LCPコントローラに初めて電源を入れる場合や20分以上使用されていない場合は、LCDにはホーム画面が表示されます。 (ホームボタン)を押すと、いつでもこの画面に戻ります。ホーム画面で を押すと、メインメニューが表示され、 を押すと調光盤のステータスが表示されます。
- ホーム画面にはLCPコントローラに設定されている日時と曜日が表示されます。日時や曜日に間違えがある場合は、ステップ2を確認の上、日時や所在地の設定を行ってください。
- 25分以上操作がない場合、LCDのバックライトはオフになります。制御装置のいずれかのボタンを押すと、バックライトが点灯し、ホーム画面が表示されます。

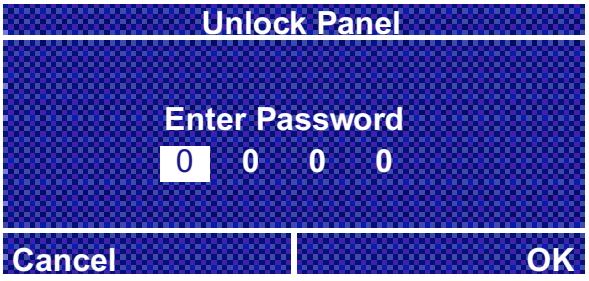


を押してメニューを起動します

制御装置のロック解除

LCPコントローラ制御装置がロックされている場合(参照機能の章にある「LCPコントローラのロック」をご覧ください)、メインメニューが起動する前にパスワードの入力画面が表示されます。 および を押して変更する桁を選択し、 と を押して数字の変更をします。パスワードを入力したら を押します。

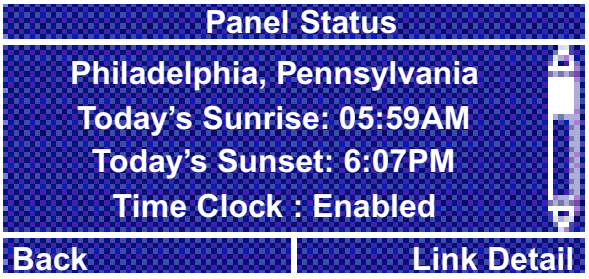
パスワードを忘れた場合は、LCPコントローラを解除するため、Lutron技術サポート (電話番号:03-5575-8411)までお問い合わせください。



LCP盤ステータス画面

ホーム画面で ⊞ を押すと、LCP盤ステータスが表示されます。LCP盤ステータス画面では次の項目が表示されます。

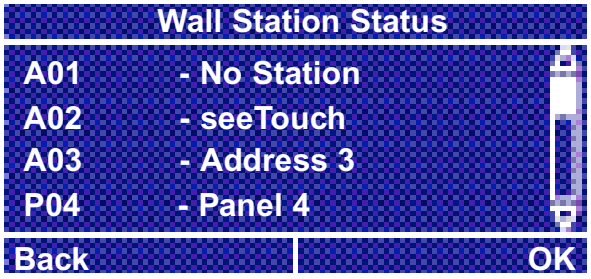
- 所在地。
- タイムクロックのステータス(オン/オフ)。
- コントロールステーションのステータス(オン/オフ)。
- システムに設定されている、本日の日の出時刻(時刻、日付、所在地は正しく設定してください)。
- システムに設定されている、本日の日没時刻(時刻、日付、所在地は正しく設定してください)。
- 使用メモリ量。
- 製作バージョン。



補助コントロールのステータス画面

ホーム画面で ⊞ を押すと、補助コントロールのステータスが表示されます。補助コントロールのステータス画面では次の項目が表示されます。

- 補助コントロールが接続され、認識されている場合は、タイプごとに分類表示されます (例:「シータッチ」など)。
- 補助コントロールが接続されていない場合は、「補助コントロールなし」と表示されます。この表示はコントロールステーションのアドレスが重複していることを示している場合もあります。
- 機器が接続されていて、システムに補助コントロールではないと認識されている場合は、「???」と表示されます。この表示もアドレスが重複していることを示している場合があります。



ステップ・バイ・ステップのプログラミング手順説明

概要

*LCP128*システムのプログラミングは7つのステップで完了します。

1.LCP盤の設定

このステップでは、LCPコントローラのLCDに表示する言語を選択し、負荷の設定を行います。複数のLCP盤があるシステムでは、LCP盤のアドレスや各LCP盤の回路数設定もこのステップで行います。

2.時刻、日付、所在地

タイムクロックを使用する場合に必要です。このステップではクロックの設定方法を説明します。

3.シーンの編集

シーンの出荷時設定を変更する場合に必要です。

4.コントロールステーション

補助コントロールやキースイッチ、接点機器、RS232機器がある場合に必要です。これらの機能をこのステップで設定します。

5.タイムクロックイベント

タイムクロックを使用する場合に必要です。このステップで、特定の時刻や毎日の日の出・日没に合わせて調光やオン・オフを自動的に行うことができます。

6.LCP盤の接点入力

LCP盤接点入力を使用する場合に必要です。各入力の動作を決定します。

7.非常時電源モード

通常給電が途絶え、非常時照明を使用する場合に必要です。非常時電源モードの間は、ステーションでの入力やタイムクロックイベントは無効になります。このステップでは、調光盤の非常用回路の有無と非常照明の設定を行います。

次のページからは、プログラミングの各ステップについて説明します。

ステップ1

調光盤を設定する

*LCP128*調光盤のプログラミングでは次の作業を行います。

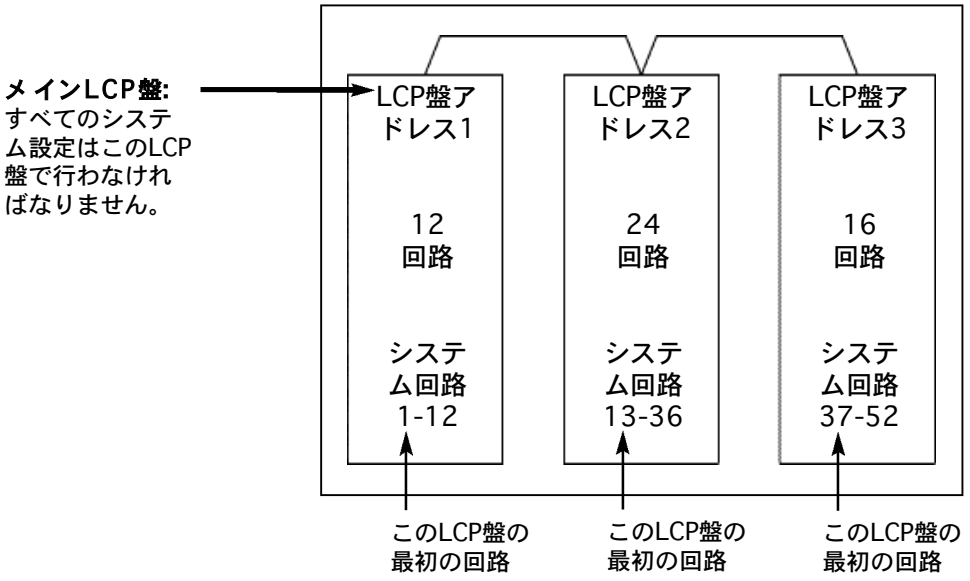
- LCPコントローラLCDの言語を選択する。
- 次のようにLCP盤の設定をする
  - LCP盤アドレス
  - LCP盤の最初の回路番号
  - LCP盤の各回路数

  システムの各回路はシステム回路番号で特定されます。この番号はプログラミングで、回路を認識するために使用します。たとえば、LCP盤その1に回路が12ある場合は、LCP盤その2の最初の回路は、*LCP128*コントローラの回路13番になります。下図はシステム例を表示しています。

  注意:*システムにLCP盤が1つしかない場合は、この設定は必要ありません。LCP盤アドレス、最初のシステム回路番号、回路数はあらかじめプログラミングされています。しかし、複数のLCP盤があるシステムでは、メインのLCP盤(アドレス1)と各リモートLCP盤で、順次この設定を行う必要があります。*
- 次の負荷設定をする
  - モジュールタイプ設定
  - システムサイズ
  - 負荷タイプ
  - ハイエンド設定
  - ローエンド設定

  システムプログラミングはすべて(ステップ2～7を含みます)、LCP盤アドレス1で行います。複数のLCP盤があるシステムでは、LCP盤アドレス1はメインのプログラミングLCP盤となり、その他のLCP盤はリモートLCP盤になります。リモートLCP盤のメニューオプションと機能は一部に限られています。

  この説明書裏面にあるLCP盤・モジュールタイプ・負荷タイプ・コントロールステーション表の記入を完了してからステップ1に進んでください。



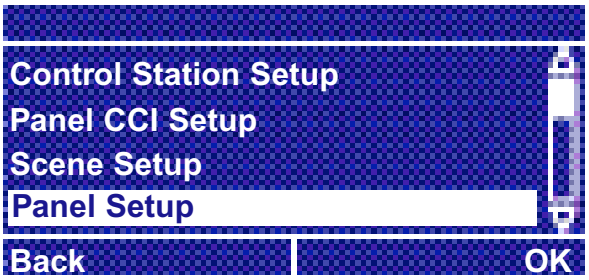
言語を選択する

A. メインメニューのLCP盤の設定に ▲ と ▼ でカーソルを合わせ、OK または ⊞ (OK)を押します。

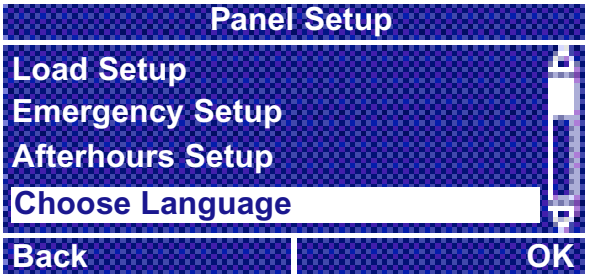
B. ▲ と ▼で言語の選択にカーソルを合わせ OK または ⊞ (OK)を押します。

C. ▲ と ▼ で言語を設定し、OK または ⊞ (OK)を押します。出荷時設定は英語です。

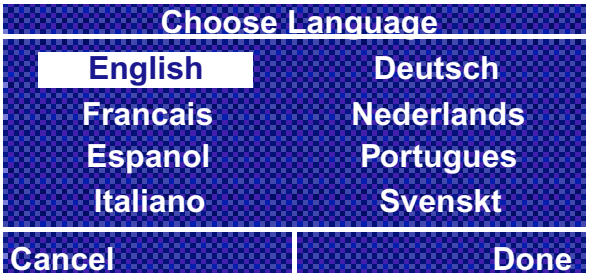
A.



B.



C.



システムサイズを設定する

システムで使用される回路のみをLCPコントローラの画面が表示するように、システムサイズを設定することができます。出荷時のシステムサイズは128回路に設定されています。

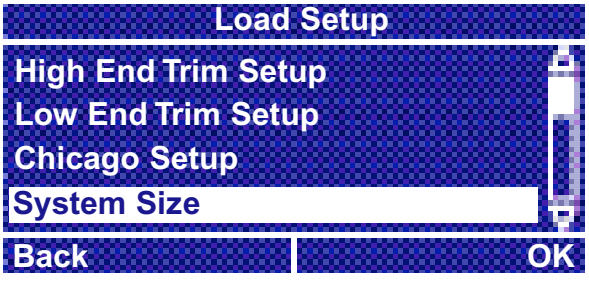
A. メインメニューのLCP盤の設定に ▲ と ▼ でカーソルを合わせ、OK または ⊞ (OK)を押します。

B. ▲ と ▼ で負荷の設定にカーソルをあわせ OK または ⊞ (OK)を押します。

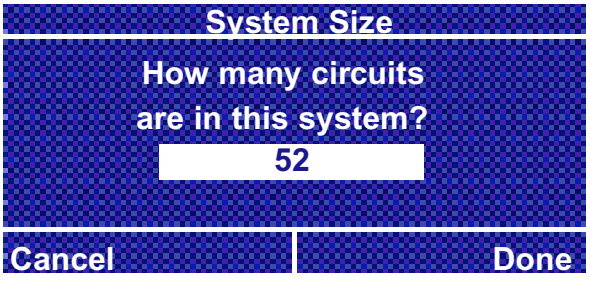
C. ▲ と ▼ でシステムサイズにカーソルを合わせ OK または ⊞ (OK)を押します。

D. ▲ と ▼ でシステム回路の合計数を設定し、OK または ⊞ (完了)を押します。

C.



D.



LCP盤設定 - 複数LCP盤システムのみ

複数のLCP盤のあるシステムでは、アドレスと各LCP盤の回路数を、メインのLCP盤から順次設定する必要があります。

A. メインLCP盤のLCPコントローラで、メインメニューのLCP盤の設定に ▲ と ▼ でカーソルを合わせ、OK か ⊞ (OK)を押します。

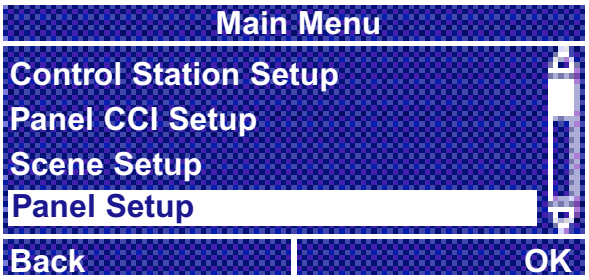
B. ▲ と ▼ でLCP盤アドレス設定にカーソルを合わせ、OK または ⊞ (OK)を押します。

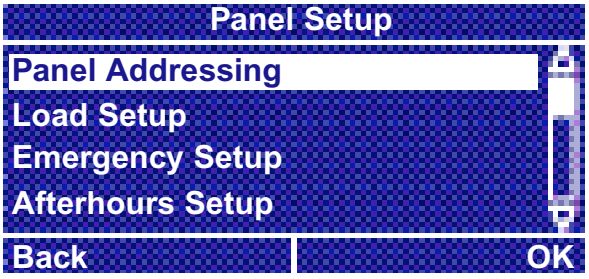
C. ▲ と ▼ でLCP盤アドレスを設定し、OK または ⊞ (次へ)を押します。
メインLCP盤アドレス = 01

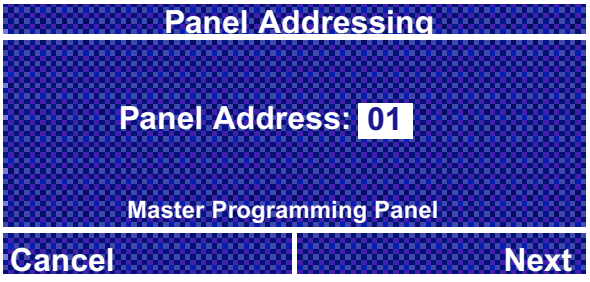
D. ▲ と ▼ でLCP盤にある最初のシステム回路番号を設定し、OK または ⊞ (次へ)を押します。

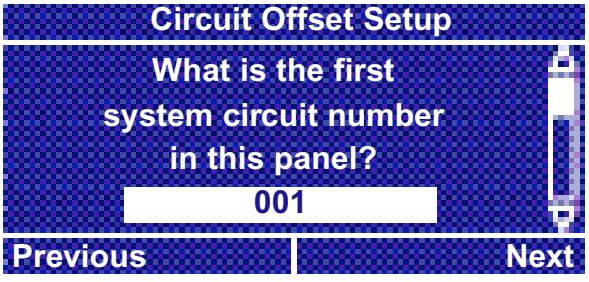
E. ▲ と ▼ でこのLCP盤にあるシステム回路数を設定し、OK または ⊞ (完了)を押します。

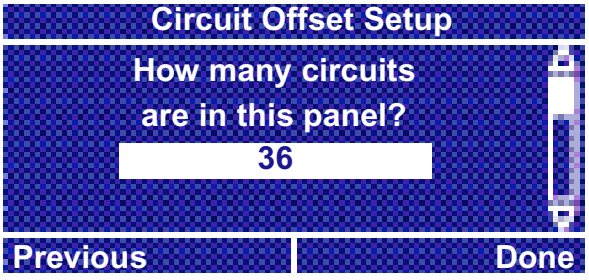
F. この手順を各リモートLCP盤で繰り返し、LCP盤のアドレスと回路の番号を設定します。
LCP盤2 アドレス = 02
LCP盤3 アドレス = 03
など

A.


B.


C.


D.


E.


モジュールタイプを設定する

*LCP128*システムには1つ以上の出力(回路)が設定されたモジュールがあります。モジュールのタイプはシステムのLCP盤のモジュール番号で設定されます。この説明書裏面にあるモジュールタイプ表の記入を完了してから、システムのモジュールタイプをプログラミングしてください。工場出荷時のモジュールタイプはX(4スイッチ)です。

A. メインメニューのLCP盤の設定に ▲ と ▼ でカーソルを合わせ、OK または ⊞ (OK)を押します。

B. ▲ と ▼ で負荷の設定にカーソルをあわせ OK または ⊞ (OK)を押します。

C. ▲ と ▼ でモジュールタイプの設定にカーソルを合わせ OK または ⊞ (OK)を押します。

D. モジュールタイプ設定画面にすべての回路が表示されます。モジュールをプログラミングするには、▲ および ▼ で、モジュールで最初の回路番号を選択し、◀ および ▶ でモジュールタイプを設定します。

モジュールタイプは次のとおりです。

X: 4回路スイッチング XPモジュール(XP)

S: 1回路調光モジュール(1U) (日本仕様にはありません)

D: 2回路調光モジュール(2U) (日本仕様にはありません)

Q: 4回路白熱灯調光モジュール(4U)

E: 4回路電子トランス用調光モジュール(4E)

A: 4回路白熱灯・電子トランス兼用調光モジュール(4A)

M: 4回路モーターモジュール(4M) (日本仕様にはありません)

F: 4回路静音ファンモジュール(4FSQ) (日本仕様にはありません)

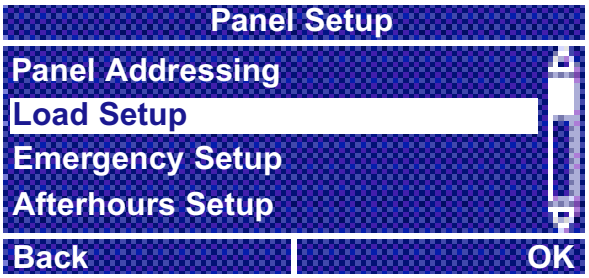
G: GP調光盤調光カード(G4) - 4つのグループに指定 (日本仕様にはありません)

注意:
各モジュールタイプを設定すると、各モジュールに適切な回路番号が自動的に設定されます。

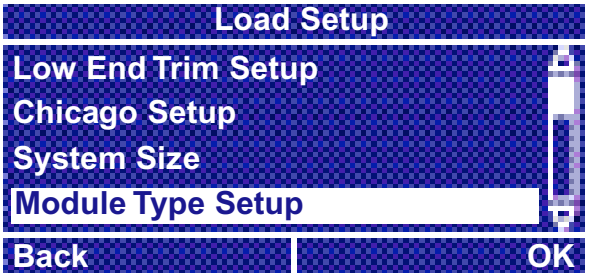
ステップ1でシステムサイズをすでに設定している場合は、モジュールタイプ設定の画面はシステムで使用している回路のみを表示します。

E. モジュールタイプがすべて設定されたら、OK または ⊞ (完了)を押します。

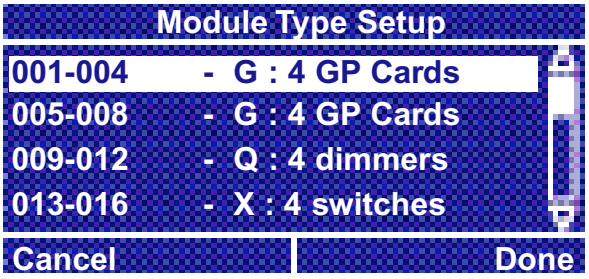
B.



C.



D.



負荷タイプを設定する

この説明書裏面にある負荷タイプ表の記入を完了し、システム回路の負荷タイプをプログラミングしてください。各回路の負荷タイプは工場出荷時設定が非調光になっています。

注意: 負荷タイプがわからない回路がある場合は、正しい設定がわかるまで、負荷タイプを非調光に設定します。

A. メインメニューのLCP盤の設定に ▲ と ▼ でカーソルを合わせ、OK または ■ (OK)を押します。

B. ▲ と ▼ で負荷の設定にカーソルをあわせ OK または ■ (OK)を押します。

C. ▲ と ▼ で負荷タイプの設定にカーソルをあわせ OK または ■ (OK)を押します。

D. 負荷タイプ設定画面にすべての回路が表示されます。各回路で ▲ と ▼ を使用して回路を選択し、◀ と ▶ で負荷タイプを選択します。

回路に割当てられたモジュールタイプによって負荷タイプが異なります。

スイッチ: 非調光、Tridonic DSI、0～10V、DALI、パルス幅変調、10～0V、DALI LOG、DSI LOG

調光: 白熱灯、MLV(電磁トランス付きローボルト球),Tu-Wire(安定器)、ネオン、ELV(電子トランス付きローボルト球)、非調光、Tridonic DSI、DSI LOG、0～10V、10～0V、DALI、DALI LOG、PWM、FDB(スペックグレードのみ)、白熱・電子トランス兼用(4Aのみ)

モーター: モーター

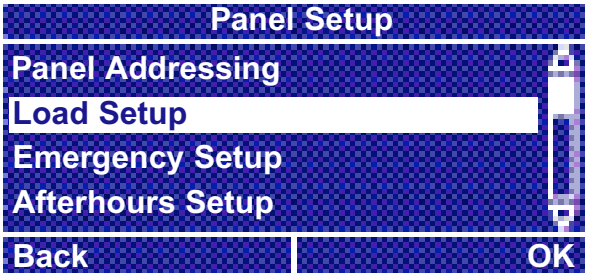
ファン: ファン

注意:スイッチング又は調光モジュールでTridonic DSI、DSI LOG、0～10V、10～0V、DALI、DALI LOG、PWMタイプを制御するにはTVMモジュールが必要です。

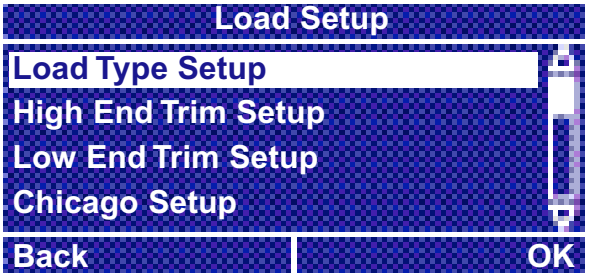
E. 負荷タイプをすべて設定したら、OK または ■ (完了)を押します。

負荷タイプの設定はこれで完了です。停電などが発生した場合でも設定はすべて保存されています。

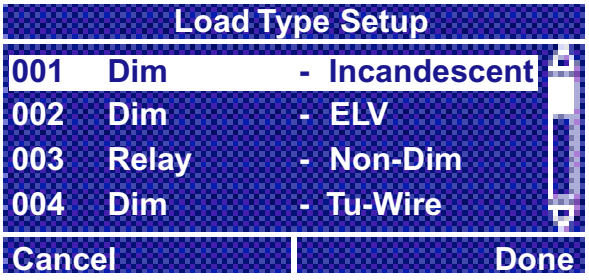
B.



C.



D.



注意! 負荷タイプが正しく設定されていないと、器具に損傷を与える恐れがあり、特に電子トランス、電子安定器、モーターなどの損傷につながることがあります。非調光以外の負荷タイプを設定する場合は、トランスや安定器メーカーに、当該製品で位相制御による調光の可否を事前にお確かめください。

ハイ/ローエンド設定を行う

ハイ・ローエンド設定は回路の最高または最低照度の限度を設定します。負荷タイプをプログラミングすると、レベルが自動的に設定されます。工場出荷時設定を変更する場合に限り、回路のハイ・ローエンド設定を調整してください。

A. メインメニューのLCP盤の設定に ▲ と ▼ でカーソルを合わせ、OK または ⊞ (OK)を押します。

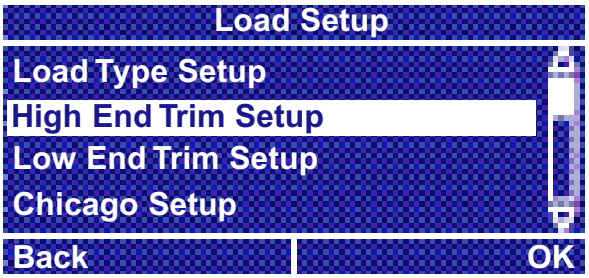
B. ▲ と ▼ で負荷の設定にカーソルをあわせ OK または ⊞ (OK)を押します。

C. ▲ と ▼ でハイエンド設定またはローエンド設定にカーソルを合わせ、OK または ⊞ (OK)を押します。

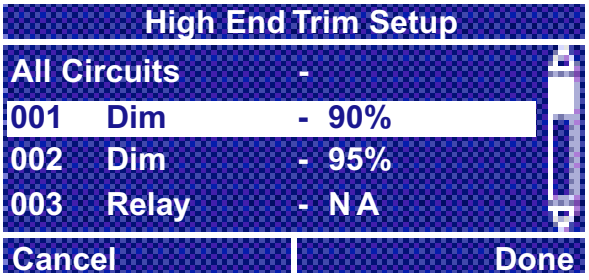
D. 各調光回路で ▲ と ▼ を使用して回路を選択し、◀ と ▶ でハイ・ローエンドのレベル設定を選択します。非調光、モーター、ファン回路はNA (該当なし) に設定します。

E. ハイ・ローエンドのレベルをすべて設定したら、OK または ⊞ (完了)を押します。

C.



D.



注 意! 蛍光灯負荷タイプではローエンドの設定を下げないでください。設定を下げると、蛍光灯の寿命が短くなる場合があります。

シカゴ市用設定

この機能は、米国イリノイ州シカゴ市の電気工事規定に準拠するために使用します。これは照明レベルの下限を設定するもので、これにはシーンのオフも含まれます。この設定は10%～60%の範囲で、1%単位での調整が可能です。

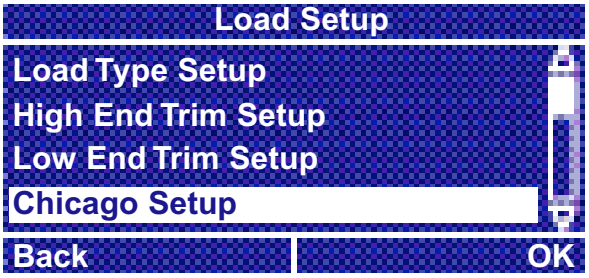
A. メインメニューのLCP盤の設定に ▲ と ▼ でカーソルを合わせ、OK または ⊞ (OK)を押します。

B. ▲ と ▼ で負荷の設定にカーソルをあわせ OK または ⊞ (OK)を押します。

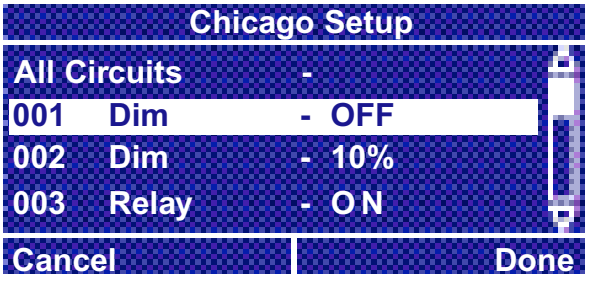
C. ▲ と ▼ でシカゴ市地域用にカーソルをあわせ OK または ⊞ (OK)を押します。

D. ▲ と ▼ を使用して回路を選択し、◀ と ▶ でシカゴ制限を設定します。回路の制限をすべて設定したら、OK または ⊞ (完了)を押します。

C.



D.



タイムクロックを設定する

*LCP128*システムはシーンやその他の動作を、一定の時刻や毎日の日の出・日没に合わせて自動的に開始するようプログラミングできます。そのためには、必要に応じてタイムクロックの設定を所在地に合わせる必要があります。

タイムクロックの設定項目は次のとおりです。

- 時間形式の選択(12時間制または24時間制)。
- 時刻の設定。
- 日付の設定。
- 国/都市または緯度/経度による所在地の設定。
- 特定の環境に適合する日の出•日没時刻の調整。
- サマータイムの有無と、有る場合はその適用期間。

時間形式

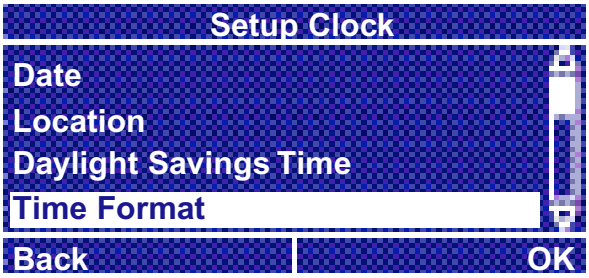
A. メインメニューのタイムクロックに設定に ▲ と ▼ でカーソルを合わせ、OK または ⊞ (OK)を押します。

B. ▲ と ▼ でクロックの設定にカーソルを合わせ、OK または ⊞ (OK)を押します。

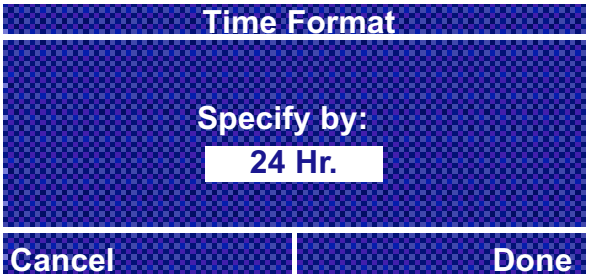
C. ▲ と ▼ で時間形式にカーソルを合わせ、OK または ⊞ (OK)を押します。

D. ▲ と ▼ で24時間制か12時間制にするか指定します。OK または ⊞ (完了)を押して設定を保存します。

C.



D.



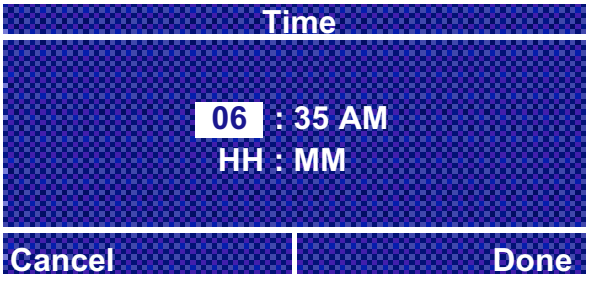
時刻

A. クロックの設定メニューの ▲ と ▼ で、時刻にカーソルを合わせ、OK または ⊞ (OK)を押します。

B. ▲ と ▼ で、現在の時刻を変更します。◀ と ▶ で、時と分を切り換えます。

C. OK または ⊞ (完了)を押して設定を保存します。

B.



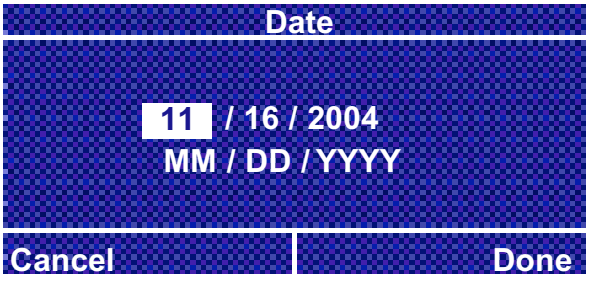
日付

A. クロックの設定メニューの日付に ▲ と ▼ で、カーソルを合わせ、OK または ⊞ (OK)を押します。

B. ▲ と ▼ で現在の日付を変更します。◀ と ▶ で月・日・年を切り換えます。最初の2桁は月、中央の2桁は日、そして末尾4桁は年です。

C. OK または ⊞ (完了)を押して設定を保存します。

B.



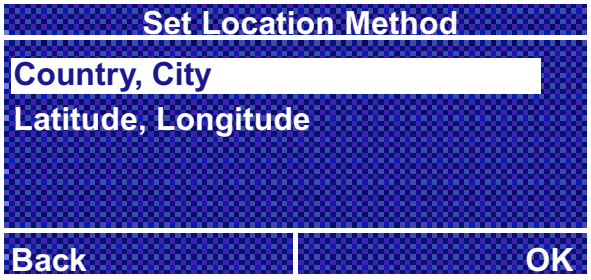
所在地

***注意:**日の出や日没に関連したタイムクロックイベントを使用する場合は、所在地の設定が必要です。*

A. クロックの設定メニューの所在地に ▲ と ▼ でにカーソルを合わせ、OK か ⊞ (OK)を押します。

B. ▲ と ▼ で、設定する所在地を国名と都市名で入力するか、緯度と経度で入力するか(リストに近くの都市がない場合)を選択します。選択後、OK または ⊞ (OK)を押します。

B.

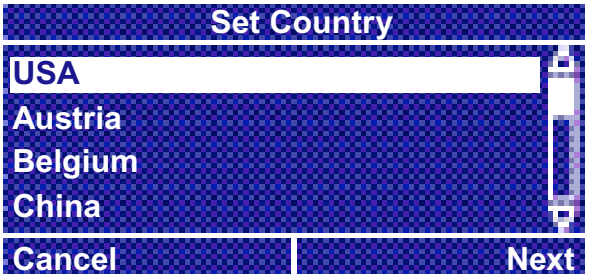


国と都市で設定する場合

C. ▲ と ▼ で国を選択し、OK または ⊞ (次へ)を押します。
米国の場合は、▲ と ▼ で州を選択し、OK または ⊞ (次へ)を押します。

D. ▲ と ▼ で都市を選択して、OK または ⊞（次へ）を押します。

C.



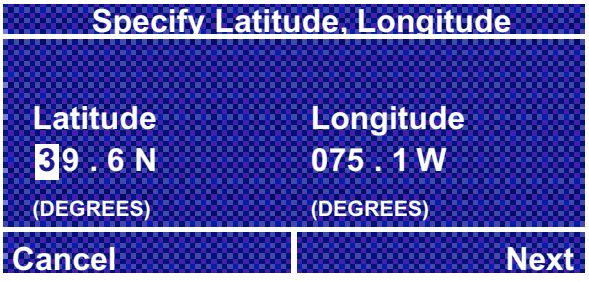
緯度・経度で設定する場合

C. ◀ と ▶ で桁を選択し、▲ と ▼ で所在地の緯度と経度数を設定したら OK または ⊞ (次へ)を押します。

D. ▲ と ▼ で所在地のタイムゾーンを選択し、OK または ⊞ (次へ)を押します。リストの数値はグリニッジ標準時との時差　　示しています。

例：所在地が北緯39度36分なら、39.6N度と入力します。分は60で割って十進数に変換ｂワす。

C.



D.

所在地（続き）

所在地の国名と都市名を入力する

E. 所在地の国名を入力するには、▲ と ▼ で文字を選択し、▶ で次の文字入力に進みます。◀ で既入力文字の修正ができます。OK または ■ (次へ)を押して次に進みます。

F. 所在地の都市名を入力するには、▲ と ▼ で文字を選択し、次に ▶ で次の文字入力に進みます。◀ で既入力文字の修正ができます。OK または ■ (次へ)を押して次に進みます。

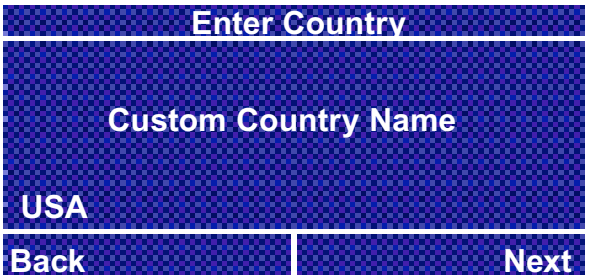
日の出・日没を調整する

G. 日の出・日没時刻を一定時間ずらしたい場合など必要に応じて、この機能を使用します。これは地理的な特徴(山岳など)により、日の出・日没時刻が一定時間ずれるような場合に使用すると便利です。またこの機能で、すでにプログラミングされた日の出・日没に関連するタイムクロックイベントをすべて補正することもできます。

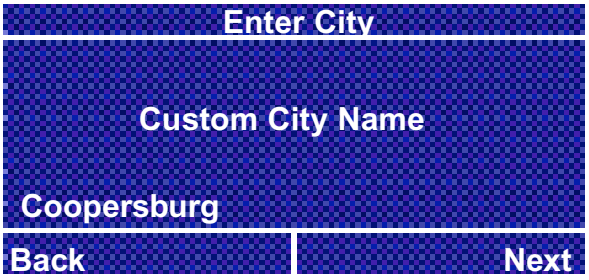
時刻を補正する必要がない場合は、オフセット値を0:00(工場出荷時設定)のままにしておきます。OK または ■ (完了)を押して設定を保存します。

注意:*サマータイムの調整にはこの機能を使用しないでください。サマータイムの調整については次のページをご覧ください。*

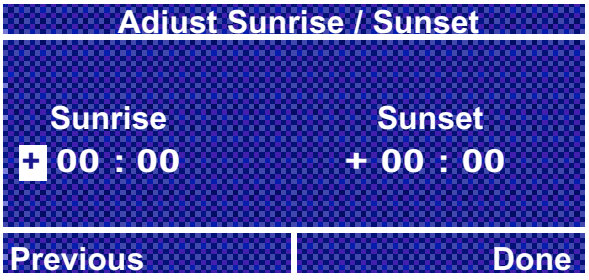
E.



F.



G.



サマータイム

この機能を使って、所在地でサマータイムを使用するかどうかを設定します。使用する場合は、サマータイムの開始と終了が設定できます。サマータイムを使用すると、時刻は自動的に変更されます。

A. クロックの設定メニューのサマータイムに ▲ と ▼ でカーソルを合わせ、OK または ⊞ (OK)を押します。

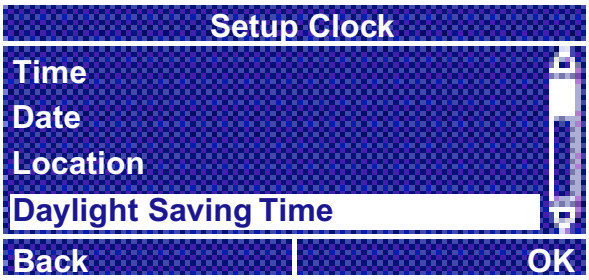
B. ▲ と ▼ でサマータイム使用の有無を設定し、OK または ⊞ (次へ)を押します。

C. 米国のサマータイム基準を使用する場合は、米国を選択します。米国以外の場合はその他を選択します。OK または ⊞ (完了)を押して設定を保存します。

D. その他を選択した場合、使用するサマータイムの基準を入力する必要があります。その基準が所在地のデフォルトととして設定されます。次の事項を確認してください。

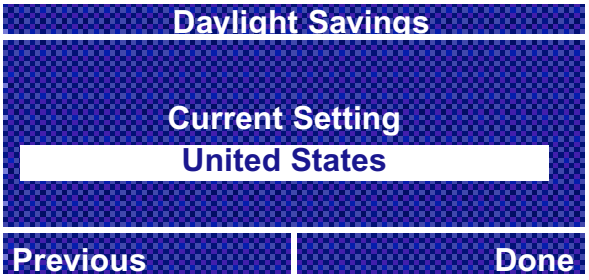
- 開始の月、週、日。
- 終了の月、週、日。
- サマータイムを分単位で調整する場合に使用できる分数は120分までです。

A.



B.

C.



シーンを編集する

シーンとはシステムの回路に保存された照明レベルのことです。シーンは、スイッチや調光の設定を組み合わせてプログラミングし、さまざまな照明効果を作り出すことができます。

*LCP128*システムには工場出荷時に32のプリセットシーンと1つのオフシーンが設定されています。(シーンの出荷時設定については下表をご覧ください)システムをプログラミングして、タイムクロックイベントを各シーンに割当てることもできます。たとえば、毎午後6時にある調光回路レベルを上げて、さらに別の回路をオンにするような動作です。コントロールステーションでの入力にシーンを割当てることもできます。(補助コントロール、キースイッチ、接点)これによりボタンを押したり、キーを回したり、接点が作られると、いつでもご希望のシーンを起動させることができます。

ステップ3で、あらかじめ設定されているシーンを編集し、必要に応じてお好みの照明空間を作り出す方法を説明します。

注意:*ステップ4および5では、特定のタイムクロックイベントやコントロールステーションでの入力に関連した、カスタムシーンの作成についても説明します。*

シーン	調光回路の出荷時設定	スイッチ回路の出荷時設定
オフ	オフ	オフ
1	100%	オン
2	75%	オン
3	50%	オン
4	25%	オン
5～32	100%	オン

シーンを編集する

A. メインメニューのシーン 設定に ▲ と ▼ でカーソルを合わせ、OK または ⊞ (OK)を押します。

B. シーン編集画面にはシステムにあらかじめ設定されたシーンが一覧表示されます。▲ と ▼ で{編集するシーンを選択し、OK または ⊞ (次へ)を押します。

C. システムの各回路と現在の各シーン設定が一覧表示されます。▲ と ▼ を使用して回路を選択し、◀ と ▶ でその回路の設定を変更します。同時に全ての回路を変更する場合は、全回路を選択し、◀ と ▶ で設定を変更します。

注意：全回路の機能で、全調光回路の照度の調整や、全回路のオン・オフが一度に実行できます。

シーンの回路設定は、次のように回路のタイプによって異なります。

スイッチ： ON、OFF、--- (無変化)

調光： オフ、1～100%、--- (無変化)

モーター： 開ける、閉じる、停止、上げる、下げる、---(無変化) （日本仕様にはありません）

ファン: 弱、中、中強、強---(無変化) （日本仕様にはありません）

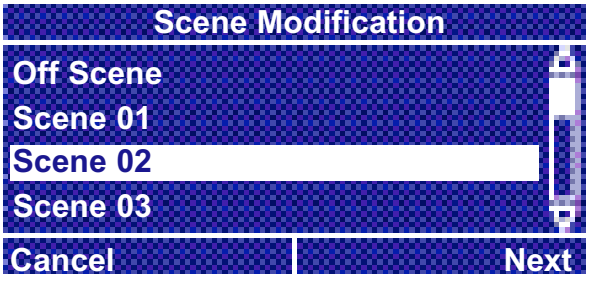
注意：---(無変化)設定にすると、この回路は該当するシーンで作動しなくなります。

シーンの編集がすべて終了したら、OK または ⊞ (次へ)を押します。

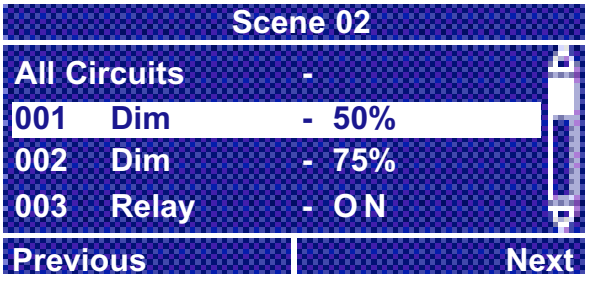
D. シーンで作動する調光回路には、▲ と ▼ でフェードタイプを設定後、OK または ⊞ (次へ)を押します。

E. 調光回路とスイッチ回路の組み合わせの場合は、▲ と ▼ でスイッチがフェードの開始かフェードの終わりのどちらで作動するか設定します。設定後、OK または ⊞ (完了)を押します。

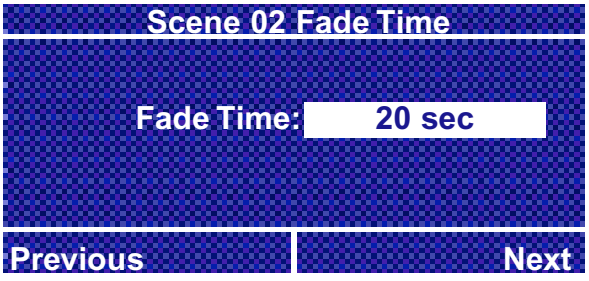
B.



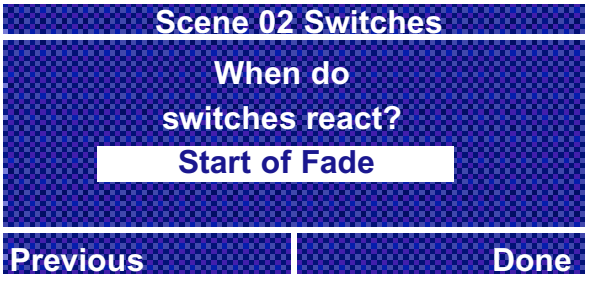
C.



D.



E.



コントロールステーション

コントロールステーションはデジタルコントロールリンクで*LCP128*調光盤に接続されています。コントロールステーションは補助ステーション(さまざまなボタンで操作)やキースイッチ(NTOMX-KS)、設定入出力機器(OMX-AV、OMX-WCI)、接点出力機器(OMX-CCO-8)、OMX-RS232インターフェース、シアターコントロール(ODMX-512)などを指します。各コントロールステーションには固有のアドレスを設定する必要があります。アドレスは該当する調光盤や各機器の取付・取扱説明書でご確認ください。アドレスの設定については各機器に付属する説明書をご覧ください。

各補助コントロールボタンやキースイッチ、接点入力には、次の操作を行わせることができます。

- シーン - シーンは特定の照明レベルとフェードタイムで構成されています。ボタンやキースイッチ、接点入力が作動すると、指定した回路がプログラミングされたシーンを開始します。シーンで接点出力を制御することもできます。
- カスタムシーン - カスタムシーンとは、あるボタンを押したり、キースイッチを回転させたり、接点に入力すると起動するようにプログラミングされたシーンのことです。カスタムシーンは上記のような指定動作によってのみ呼び出されます。
- 照度をダウンさせる - コントロールステーションからの入力が行われている限り(例えば、ボタンが押し続けられたり、キーを回したままにしたり、接点が維持されたりし場合)、指定した調光回路は徐々にダウンします。新しいイベントやコントロールステーションからの新たな入力があるまで、回路の設定は変更されません。
- 照度をアップさせる - コントロールステーションからの入力が行われている限り(例えば、ボタンが押し続けられたり、キーを回したままにしたり、接点が維持されたりし場合)、指定した調光回路は徐々にアップします。新しいイベントやコントロールステーションからの新たな入力があるまで、回路の設定は変更されません。
- 切り替え - 各ボタンやキースイッチ、接点入力が作動すると、指定された回路がオンとオフを切り替えます。指定された回路に両方の状態がある場合は(一部がオン、一部オフ)、照明は点灯します。
- 時間差オフ - - 各ボタンやキースイッチ、接点入力が作動すると、指定された回路は、あらかじめ設定された一定時間(1～90分)経過後、オフになります。
- タイムクロックのオン - タイムクロックをオンにします。
- タイムクロックのオフ - タイムクロックをオフにします。

ステップ4を続行する前にこの説明書の裏面にあるコントロールステーション表の記入を完了させてください。各コントロールステーションでの入力により作動する機能を記録しておいてください。

注 意:*ステップ4では、Lutron社OMX-AVコントロールステーションに接続した接点入力の設定をします。調光盤に直接接続されている接点入力は後ほどステップ6で設定します。*

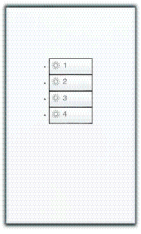
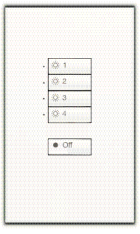
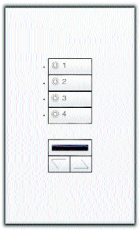
工場出荷時の設定

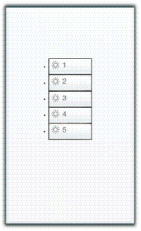
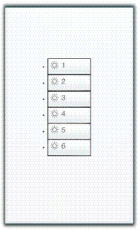
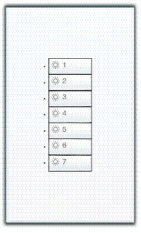
システムにコントロールステーションタイプがプログラミングされていない場合、押したボタンによってコントロールステーションタイプをLCP128が予測できるようになっています。コントロールステーションのボタンを押すと、LCP128がタイプを認識します。コントロールステーションによってはボタンを押さなくても、または少し押しただけで認識されるものもあります。LCP128でコントロールステーションが認識されると、次のような工場出荷時の設定になります。(設定は随時変更可能です)。

- 全てのボタンで全回路を操作。ボタンを押すとシーンを選択。
- アップ/ダウンの動作を全回路で実行。(非調光負荷は0%か100%のどちらからに設定されます。)
- OFFのシールがあるボタンはシーンをオフにする。OFFボタンがない場合は最後のボタンがOFFとして設定されています。
- ボタン1はシーン1、ボタン2はシーン2の順で最後のOFFボタンまで設定。
- ボタンがひとつだけのコントロールステーションの場合は、全回路のオン・オフ切り替えを行う。
- コントロールステーションがLCP128でプログラミングされると、工場出荷時設定は無効になります。
- すべてのコントロールステーションのアドレスが「ステーションなし」に設定された場合は、システムは工場出荷時設定にもどります。

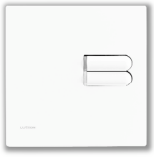
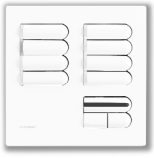
コントロールステーションのボタン番号については次ページをご覧ください。

コントロールステーションのボタン説明図工場出荷時の設定

	ボタン番号/動作内容	型番/プログラミング
	切り替え	SO-1B SO-1BO 1ボタンコントロール
	1: シーン1 2: オフ	SO-2B SO-2BO 2ボタンコントロール
	1: シーン1 2: シーン2 3: オフ	SO-3B SO-3BO 3ボタンコントロール
	1: シーン1 2: シーン2 3: シーン3 4: オフ	SO-4B SO-4BO 4ボタンコントロール
	1: シーン1 2: シーン2 3: シーン3 4: シーン 4 5: オフ	SO-4NRL SO-4NRLO 5ボタンコントロール
	1: シーン1 2: シーン2 3: シーン3 4: シーン 4 5: オフ すべてアップ　すべてダウン	SO-4S SO-4SIR SO-4SO SO-4SIRO 5ボタン、アップダウン機能あり

	ボタン番号/動作内容	型番/プログラミング
	1: シーン1 2: シーン2 3: シーン3 4: シーン 4 5: オフ	SO-5B SO-5BO 5ボタンコントロール
	1: シーン1 2: シーン2 3: シーン3 4: シーン 4 5: シーン5 6: オフ	SO-6B SO-6BO 6ボタンコントロール
	1: シーン1 2: シーン2 3: シーン3 4: シーン 4 5: シーン5 6: シーン 6 7: オフ	SO-7B SO-7BO 7ボタンコントロール
	切り替え	FOMX-1B FOMX-1B-SL 1ボタンコントロール
	1: シーン1 2: オフ	NTOMX-2B 2ボタンコントロール
	時計回り: シーン1 反時計回り:オフ	OMX-KS キースイッチ

コントロールステーションのボタン説明図工場出荷時の設定

	ボタン番号/動作内容	型番/プログラミング
	1: シーン1 2: シーン2 3: シーン3 4: シーン4 5: オフ	NTOMX-4S-NRL NTOMX-4S-IR 5ボタンコントロール
	1: シーン1 2: オフ	EOMX-2B 2ボタンコントロール
	1: シーン1 2: シーン2 3: シーン3 4: オフ	EOMX-4B 4ボタンコントロール
	1: シーン1 2: シーン2 3: シーン3 4: オフ すべてアップ　すべてダウン	EOMX-4S EOMX-4S-IR 5ボタン、アップダウン機能あり
	1-4　　5-8 シーン1　シーン5 シーン2　シーン6 シーン3　シーン7 シーン4　シーン8 　　9: オフ すべてアップ　すべてダウン	EOMX-8S EOMX-8S-IR 9ボタン、アップ・ダウン機能あり
	1: シーン1 2: シーン2 3: シーン3 4: シーン4 5: オフ 7: アップ　6: ダウン	NTOMX-KP5 7ボタンコントロール
	1: シーン1　7: シーン6 2: シーン2　8: シーン7 3: シーン3　9: シーン8 4: シーン4　10: シーン9 5: シーン5　11: オフ 6: アップ　12: ダウン	NTOMX-KP10 12ボタンコントロール
	1: シーン1　7: シーン6　12: シーン11 2: シーン2　8: シーン7　13: シーン12 3: シーン3　9: シーン8　14: シーン13 4: シーン4　10: シーン9　15: シーン14 5: シーン5　11: シーン10　16: オフ 6: すべてアップ　17: すべてダウン	NTOMX-KP15 17ボタンコントロール

	ボタン番号/動作内容	型番/プログラミング
	1: シーン1　4: シーン4 2: シーン2　5: シーン5 3: シーン3　6: オフ	NTOMX-LB6 NTOMX-LB6-RL 6ボタンコントロール
	1: シーン1　4: シーン4　7: シーン7 2: シーン2　5: シーン5　8: シーン8 3: シーン3　6: シーン6　9: オフ	NTOMX-LB9 NTOMX-LB9-RL 9ボタンコントロール
	1: シーン1 2: オフ	OMX-2B-DW 2ボタンコントロール
	1: シーン1 2: シーン2 3: シーン3 4: シーン 4 5: オフ 6: すべてアップ 7: すべてダウン	OMX-7B-DW 5ボタン、アップダウン機能あり
	1: シーン1 2: シーン2 3: シーン3 4: シーン 4 5: オフ 上げると: すべてアップ 下げると: すべてダウン	OMX-4SLB-DW 5ボタン、アップダウン機能あり

補助コントロールを設定する

A. メインメニューのコントロールステーション設定に ▲ と ▼ でカーソルを合わせ、OK または ■ (OK) を押します。

B. ▲ と ▼ で設定する補助コントロールのアドレスを選択し、OK または ■ (次へ)を押します。

注意：選択した補助コントロールのアドレスは補助コントロールのアドレススイッチ設定と一致している必要があります。

C. ▲ と ▼ でタイプを補助コントロールに設定し、OK または ■ (次へ)を押します。

D. ▲ と ▼ で補助コントロールの既設アップダウンボタンの有無を選択し、OK または ■ (次へ)を押します。

E. ▲ と ▼ でボタンの数を設定し、OK または ■ (次へ)を押します。

注意：照度アップダウンボタンは数から除外してください。

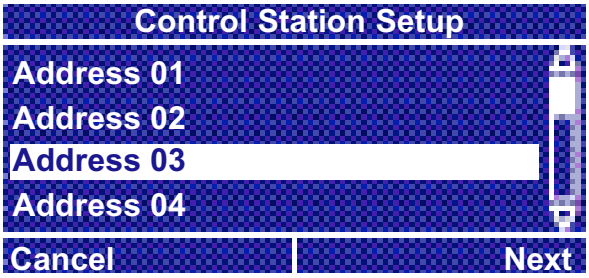
F. ▲ と ▼ でプログラミングするボタンを選択し、OK または ■ (次へ)を押します。

注意：接点入力(CCI)の設定については35ページをご覧ください。

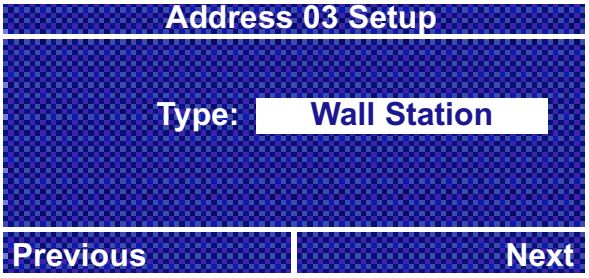
G. ▲ と ▼ でこのボタンが行う動作の種類を選択します。照度のアップ・ダウン、シーン、カスタムシーン、タイムクロックのオン・オフ、切り替えまたは動作なしから選択し、OK または ■ (次へ)を押します。

各動作のプログラミングについては下記のページをご覧ください。

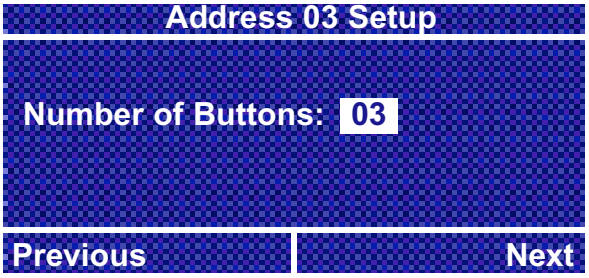
B.



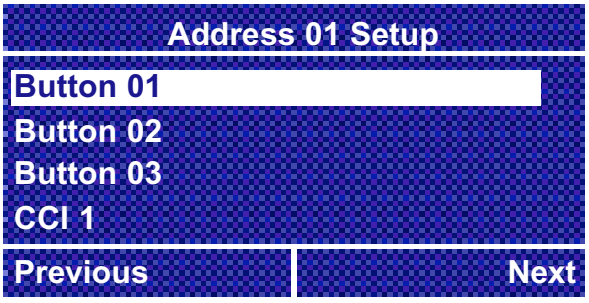
C.



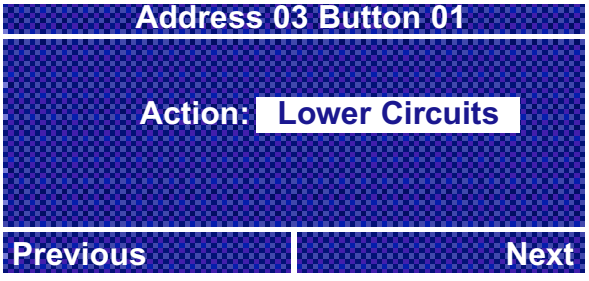
E.



F.



G.

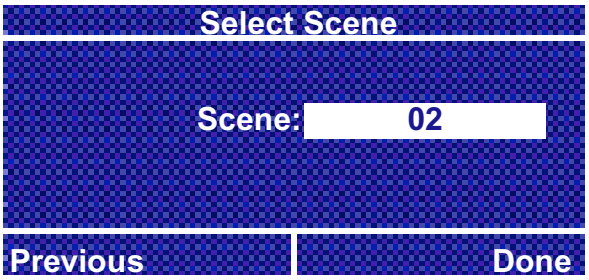


補助コントロールを設定する(続き)

シーン動作を選択した場合

H. ステップGでシーンを選択した場合は、▲ と ▼ でシーンを選択し ⊡ または ⊞ (完了)を押します。

H.



カスタムシーン動作を選択した場合

H. ステップGで、カスタムシーンを選択した場合、回路選択画面に回路一覧が表示されます。▲ と ▼ を使用して回路を選択し、◀ と ▶ でその回路の設定を変更します。同時に全ての回路を変更する場合は、全回路を選択し、◀ と ▶ で設定を変更します。

*注意：**全回路**の機能で、全調光回路の照度の調整や、全回路のオン・オフが一度に実行できます。*

回路設定は、次のように回路のタイプによって異なります。

スイッチ： ON、OFF、---(無変化)

調光： オフ、 1～100%、---(無変化)

モーター： 開ける、閉める、停止、上げる、下げる （日本仕様にはありません）

ファン： 弱、中、中強、強 （日本仕様にはありません）

注意：---(無変化)設定にすると、該当シーンではこの回路が作動しなくなります。

このカスタムシーンの回路プログラミングがすべて終了したら、⊡ または ⊞ (次へ)を押します。

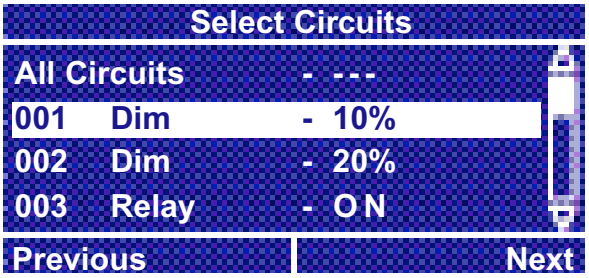
I. 接点出力のあるコントロールステーション機器(OMX-AV or OMX-CCO-8)がシステムに接続された場合のみ、CCOアドレス選択画面表が示されます。

▲ と ▼ でプログラミングしているボタンに関係する出力を選択します。◀ と ▶ でその出力の設定を次のように変更します。開いている状態を維持、閉じている状態を維持、一時パルスまたは--- (無変化)。このカスタムシーンの出力プログラミングがすべて終了したら、⊡ または ⊞ (完了) を押します。

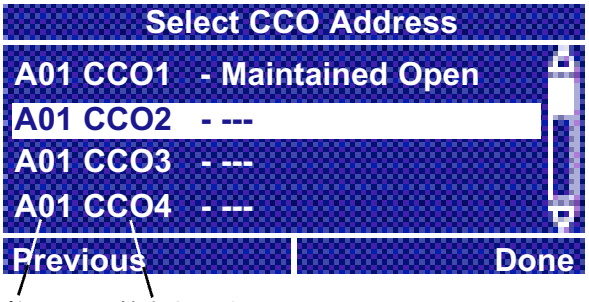
J. カスタムシーンで作動する調光回路には、▲ と ▼ でフェードタイプを設定後、⊡ または ⊞ を押します。

K. 調光回路とスイッチ回路の組み合わせの場合は、▲ と ▼ でスイッチがいつ作動するか設定します。(フェードの開始またはフェードの終わり)設定後、⊡ または ⊞ を押します。

H.

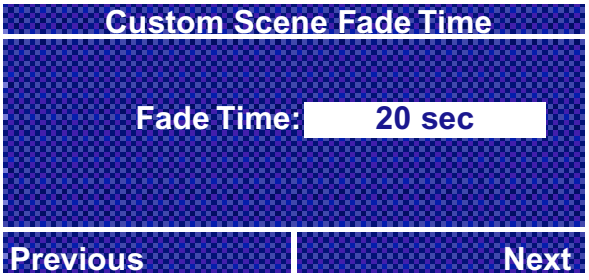


I.

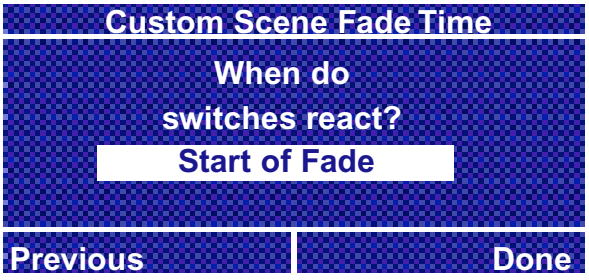


アドレス番号　接点出力番号

J.



K.



補助コントロールを設定する(続き)

時間差オフ動作を選択した場合

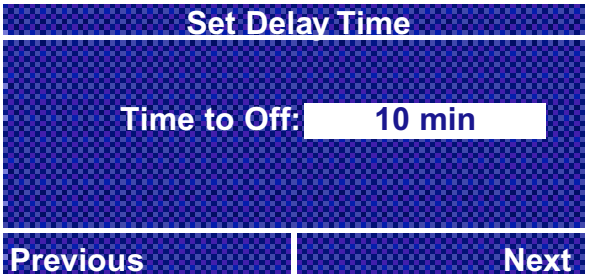
H. ステップGで時間差オフを選択した場合は、▲ と ▼ でオフまでの時間を設定し、OK または # を押します。

I. 回路指定画面には回路一覧が表示されます。指定されていない回路は破線で表示されます。カーソルを回路番号に合わせて OK を押し、指定または非指定(破線)を切り替えます。全回路を選択し、OK を押すとすべての回路を切り替えることができます。回路のプログラミングが完了したら # を押します。

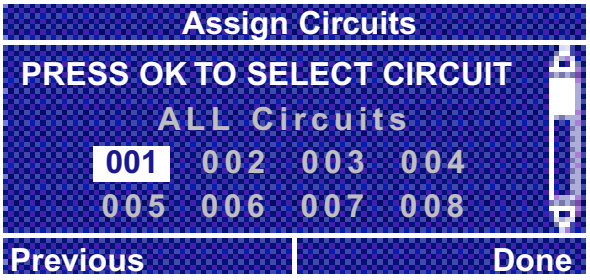
J. この動作を行う調光回路には、▲ と ▼ でフェードタイプを設定後、OK または # を押します。

K. 調光回路とスイッチ回路の組み合わせの場合は、▲ と ▼ でスイッチがいつ作動するか設定します。(フェードの開始またはフェードの終わり)設定後、OK または # を押します。

H.



I.



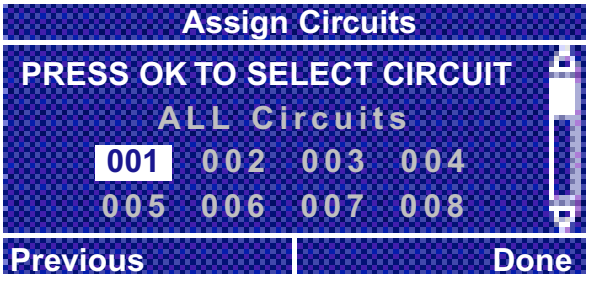
照度アップ・ダウンまたは切り替え動作を選択した場合

H. ステップGで照度のダウン、照度のアップを、切り替えのいずれかを選択した場合は、回路指定画面に回路一覧が表示されます。指定されていない回路は破線で表示されます。カーソルを回路番号に合わせて OK を押し、指定または非指定(破線)を切り替えます。全回路を選択し、OK を押すとすべての回路を切り替えることができます。回路のプログラミングが完了したら # を押します。

I. この動作を行う調光回路には、▲ と ▼ でフェードタイプを設定します。

J. 調光回路とスイッチ回路の組み合わせの場合は、▲ と ▼ でスイッチがいつ作動するか設定します。(フェードの開始またはフェードの終わり)設定後、OK または # を押します。

H.



シータッチ補助コントロールの接点入力を設定する

A. メインメニューのコントールステーション設定に ▲ と ▼ でカーソルを合わせ、OK または ⊞ (OK) を押します。

B. ▲ と ▼ で設定する補助コントロールのアドレスを選択し、OK または ⊞ (次へ)を押します。

注意: 選択した補助コントロールのアドレスは補助コントロールのアドレススイッチ設定と一致している必要があります。

C. ▲ と ▼ でタイプを補助コントロールに設定し、OK または ⊞ (次へ)を押します。

D. ▲ と ▼ で補助コントロールの既設アップダウンボタンの有無を選択し、OK または ⊞ (次へ)を押します。

E. ▲ と ▼ でボタンの数を設定し、OK または ⊞ (次へ)を押します。

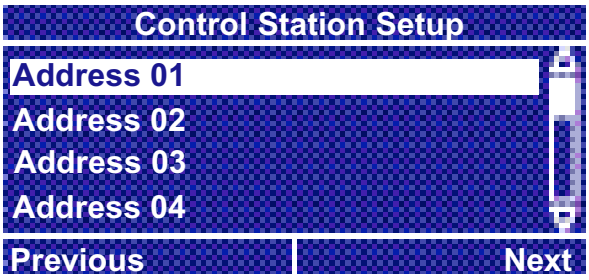
注意: 照度アップダウンボタンは数から除外してください。

F. ▲ と ▼ でプログラミングする接点入力（CCI）を選択し、OK または ⊞ (次へ)を押します。

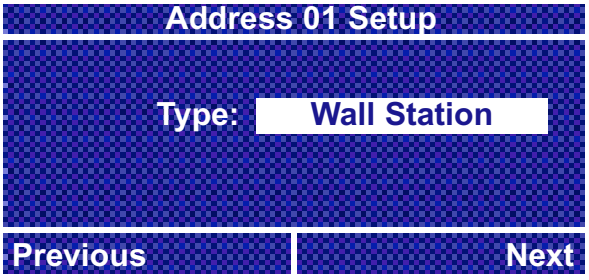
G. ▲ と ▼ で、接点が開くときと閉じるときのどちらの動作を設定するのかを選択し、OK または ⊞ (次へ)を押します。

H. ▲ と ▼ でCCIの動作の種類を選択し、OK または ⊞ (完了)を押します。

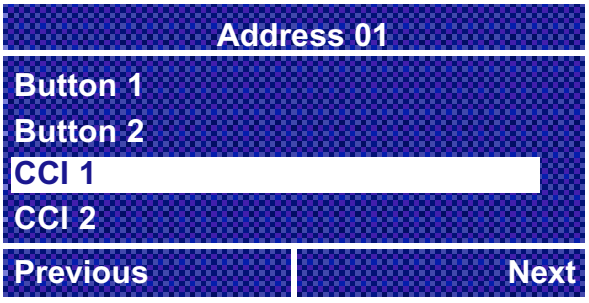
B.



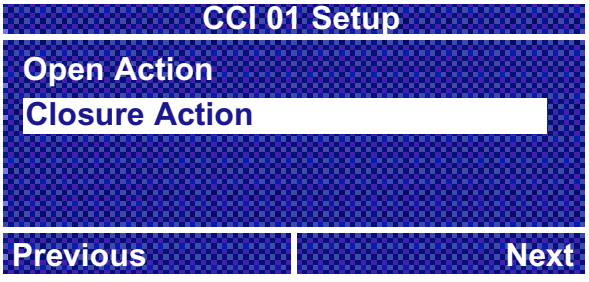
C.



F.



G.



H.

OMX-CIRを設定する

A. メインメニューのコントロールステーション設定に ▲ と ▼ でカーソルを合わせ、⏎ または ⊞ (OK) を押します。

B. ▲ と ▼ で設定する補助コントロールのアドレスを選択し、⏎ または ⊞ (次へ)を押します。

注意：選択した補助コントロールのアドレスはOMX-CIRのアドレススイッチ設定と一致している必要があります。

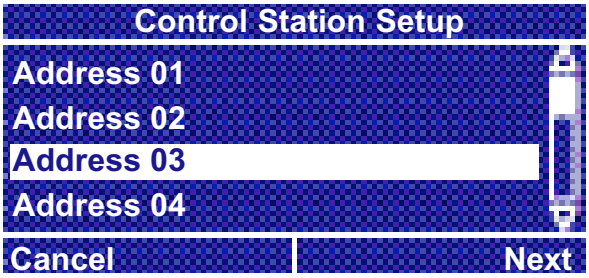
C. ▲ と ▼ でタイプを補助コントロールに設定し、⏎ または ⊞ (次へ)を押します。

D. ▲ と ▼ でプログラミングするボタンを選択し、⏎ または ⊞ (次へ)を押します。

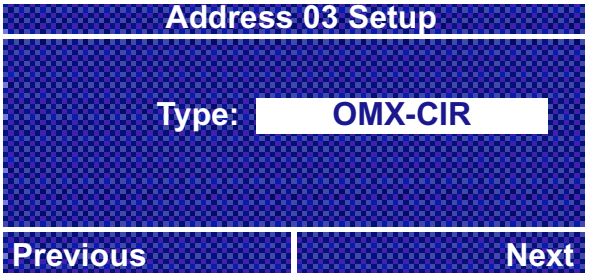
E. ▲ と ▼ でこのボタンが行う動作の種類を選択します。照度のアップ・ダウン、シーン、カスタムシーン、タイムクロックのオン・オフ、切り替えまたは動作なしから選択し、⏎ または ⊞ (次へ) を押します。

各動作のプログラミングについては下記のページをご覧ください。

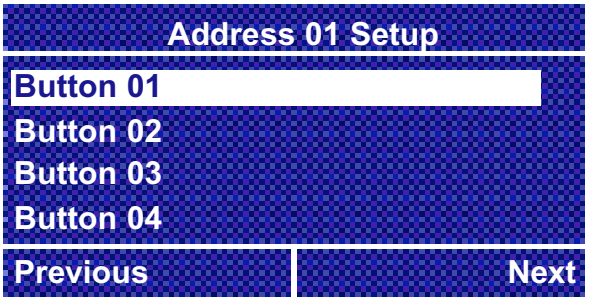
B.



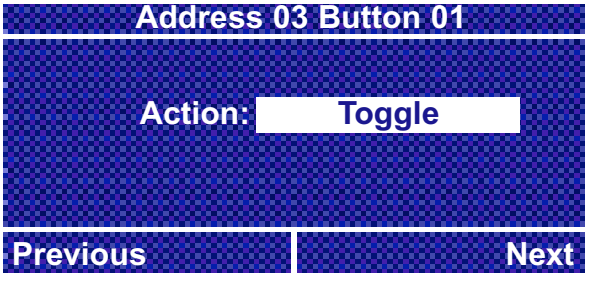
C.



D.



E.

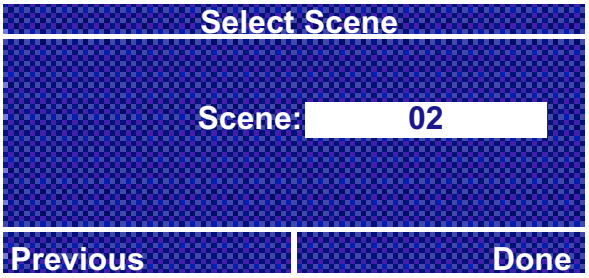


OMX-CIRを設定する(続き)

シーン動作を選択した場合

G. ステップFでシーンを選択した場合は、▲ と ▼ でシーンを選択し、 または (完了)を押します。

H.



カスタムシーン動作を選択した場合

G. ステップFで、カスタムシーンを選択した場合、回路選択画面に回路一覧が表示されます。▲ と ▼ を使用して回路を選択し、◀ と ▶ でその回路の設定を変更します。同時に全ての回路を変更する場合は、全回路を選択し、◀ と ▶ で設定を変更します。

注意: 全回路の機能で、全調光回路の照度の調整や、全回路のオン・オフが一度に実行できます。

回路設定は、次のように回路のタイプによって異なります。

スイッチ: ON、OFF、---(無変化)

調光: オフ、 1～100%、---(無変化)

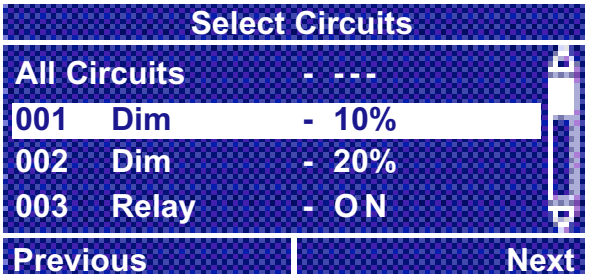
モーター: 開ける、閉める、停止、上げる、下げる （日本仕様にはありません）

ファン: 弱、中、中強、強 （日本仕様にはありません）

注意:---(無変化)設定にすると、該当シーンではこの回路が作動しなくなります。

このカスタムシーンの回路プログラミングがすべて終了したら、 または (次へ)を押します。

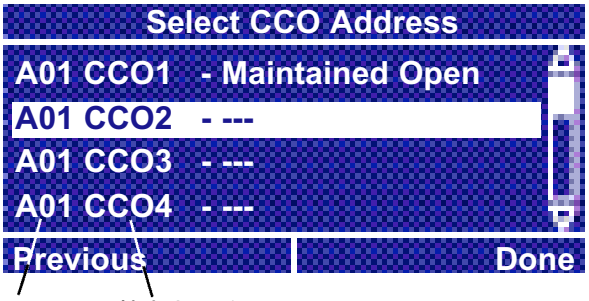
H.



I. 接点出力のあるコントロールステーション機器(OMX-AV or OMX-CCO-8)がシステムに接続された場合のみ、CCOアドレス選択画面表が示されます。

▲ と ▼ でプログラミングしているボタンに関係する出力を選択します。◀ と ▶ でその出力の設定を次のように変更します。開いている状態を維持、閉じている状態を維持、一時パルスまたは--- (無変化)。このカスタムシーンの出力プログラミングがすべて終了したら、 または (完了)を押します。

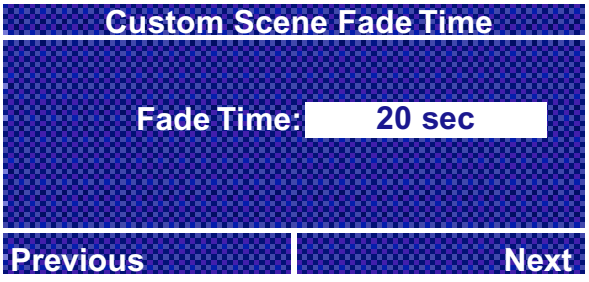
I.



アドレス番号　接点出力番号

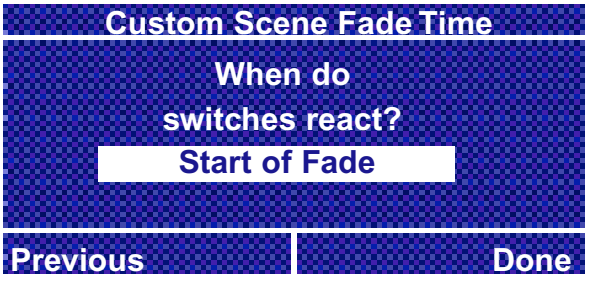
J. カスタムシーンで作動する調光回路には、▲ と ▼ でフェードタイプを設定後、 または を押します。

J.



K. 調光回路とスイッチ回路の組み合わせの場合は、▲ と ▼ でスイッチがいつ作動するか設定します。(フェードの開始またはフェードの終わり)設定後、 または を押します。

K.



OMX-CIRを設定する(続き)

時間差オフ動作を選択した場合

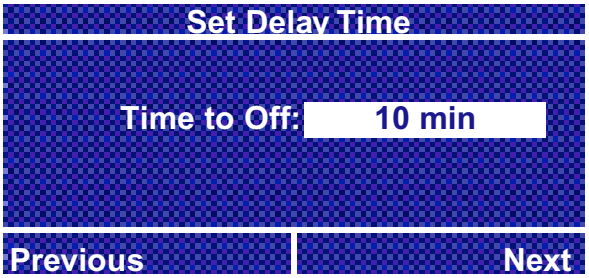
G. ステップFで時間差オフを選択した場合は、▲ と ▼ でオフまでの時間を設定し、OK または ■ を押します。

I. 回路指定画面には回路一覧が表示されます。指定されていない回路は破線で表示されます。カーソルを回路番号に合わせて OK を押し、指定または非指定(破線)を切り替えます。全回路を選択し、OK を押すとすべての回路を切り替えることができます。回路のプログラミングが完了したら ■ を押します。

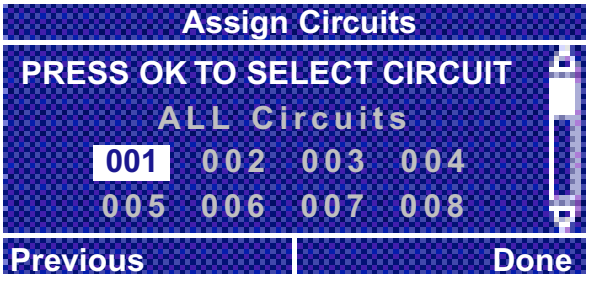
J. この動作を行う調光回路には、▲ と ▼ でフェードタイプを設定後、OK または ■ を押します。

K. 調光回路とスイッチ回路の組み合わせの場合は、▲ と ▼ でスイッチがいつ作動するか設定します。(フェードの開始またはフェードの終わり)設定後、OK または ■ を押します。

H.



I.



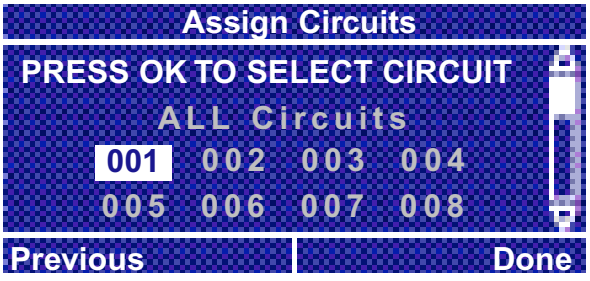
照度アップ・ダウンまたは切り替え動作を選択した場合

G. ステップEで照度のダウン、照度のアップを、切り替えを選択した場合は、回路指定画面に回路一覧が表示されます。指定されていない回路は破線で表示されます。カーソルを回路番号に合わせて OK を押し、指定または非指定(破線)を切り替えます。全回路を選択し、OK を押すとすべての回路を切り替えることができます。回路のプログラミングが完了したら ■ を押します。

I. この動作を行う調光回路には、▲ と ▼ でフェードタイプを設定します。

J. 調光回路とスイッチ回路の組み合わせの場合は、▲ と ▼ でスイッチがいつ作動するか設定します。(フェードの開始またはフェードの終わり)設定後、OK または ■ を押します。

H.



キースイッチの設定 (NTOMX-KS)

Lutron社のNTOMX-KSキースイッチコントロールステーションを時計回りと反時計回りに回転させることで、動作がスタートするようにプログラミングできます。

A. メインメニューのコントロールステーション設定に ▲ と ▼ でカーソルを合わせ、OK または ⊞ (OK)を押します。

B. ▲ と ▼ で設定するNTOMX-KSのアドレスにカーソルを合わせ、OK または ⊞ （次へ）を押します。

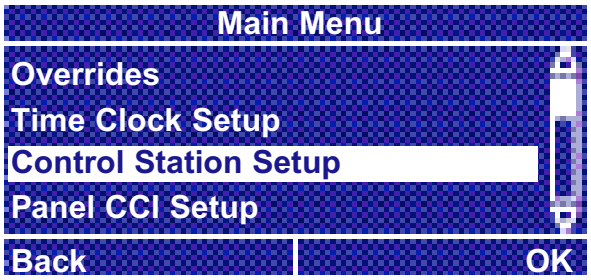
C. ▲ と ▼ でコントロールステーションの種類をキースイッチに変更し、OK または ⊞ (次へ)を押します。

D. ▲ と ▼ でプログラミングする回転の方向にカーソルを合わせ、OK または ⊞ (次へ)を押します。各キースイッチは時計回りと反時計回りでプログラミングすることができます。両方向のプログラミングも可能です。

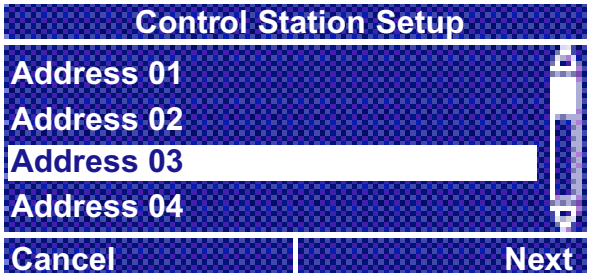
E. ▲ と ▼ でキーの回転が行う動作の種類を選択します。照度のダウン、照度のアップ、シーン、カスタムシーン、タイムクロックのオン・オフ、時間差オフ、切り替えおよび動作なしを選択して、OK または ⊞ (次へ)を押します。動作の種類については、ステップ4の冒頭をご覧ください。

F. 補助コントロールのボタンを設定したときと同様の手順で、照度のダウン、照度のアップ、シーン、カスタムシーン、時間差オフまたは切り替え動作のプログラミングをします。詳細はステップ4前半の「補助コントロールを設定する」をご覧ください。

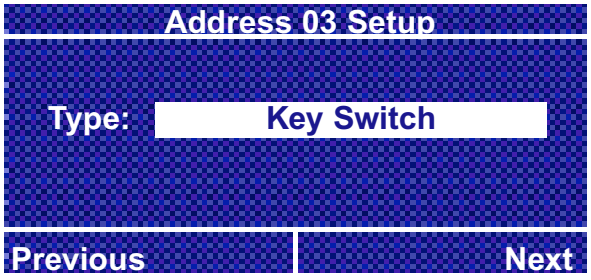
A.



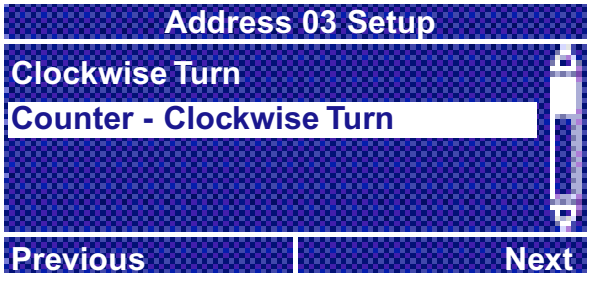
B.



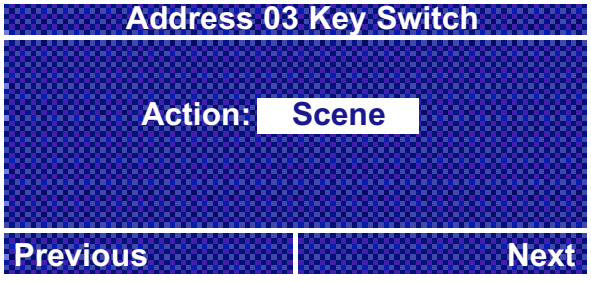
C.



D.



F.



OMX-AV/OMX-WCI の接点入力を設定する

Lutron社のOMX-AVまたはOMX-WCI (日本未発売) コントロールステーションは、最大5つまでの接点入力で動作をスタートするようにプログラミングできます。

注意:*LCP盤に直接接続した接点入力についてはステップ6をご覧ください。*

注意:*OMX-WCI は7つの接点入力があります。*

A. メインメニューのコントロールステーション設定に ▲ と ▼ でカーソルを合わせ、OK または ■ (OK)を押します。

B. ▲ と ▼ で{設定するOMX-AVのアドレスにカーソルを合わせ、OK または ■ (次へ)を押します。

C. ▲ と ▼ でコントロールステーションのタイプをOMX-AV に設定し、OK または ■ (次へ) を押します。

D. 各OMX-AVには5つの入力端子があります。▲ と ▼ でプログラミングする接点入力（CCI）にカーソルを合わせ、OK または ■ (次へ)を押します。接点出力(CCO)しかない場合は、CCIなしを選択します。

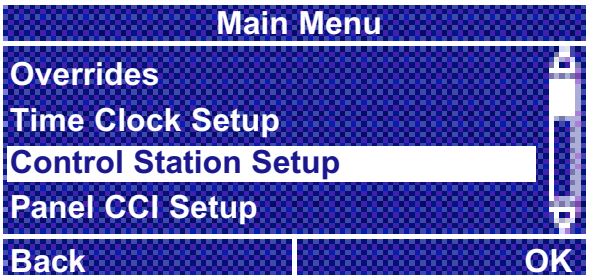
E. ▲ と ▼ で、接点が開いたときと閉じたときのどちらの動作を設定するのかを選択しOK または ■ (次へ)を押します。

注意: *両方に動作を設定する場合は、まず**開いた時の動作**を設定してから、**閉じた時の動作**の設定を同じ手順で行ってください。*

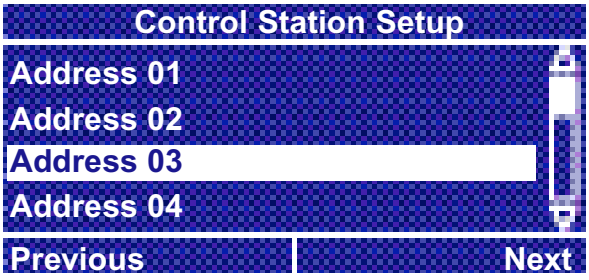
F. ▲ と ▼ でこのCCIが行う動作の種類を選択します。照度のダウン、照度のアップ、シーン、カスタムシーン、タイムクロックのオン・オフ、時間差オフ、切り替えおよび動作なしを選択して、OK または ■ (次へ)を押します。動作の種類については、ステップ4の冒頭をご覧ください。

G. 補助コントロールのボタンを設定したときと同様の手順で、照度のダウン、照度のアップ、シーン、カスタムシーン、時間差オフまたは切り替え動作のプログラミングをします。詳細はステップ4前半の「補助コントロールを設定する」をご覧ください。

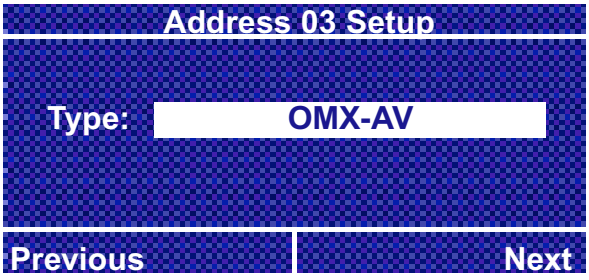
A.



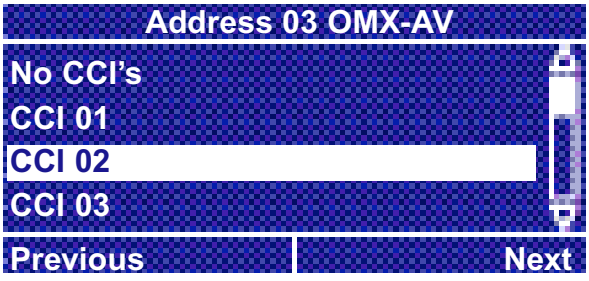
B.



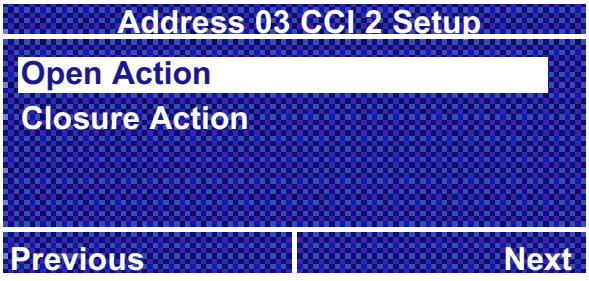
C.



D.



E.



ODMX-512回路へのDMXチャンネルの設定

Lutron社のODMX-512コントロールステーションはシステムの32回路にプログラミングができます。従ってシステム内の指定した回路へ調光卓からの入力を送ることができます。

A. メインメニューのコントロールステーション設定に ▲ と ▼ でカーソルを合わせ、OK または ■ (OK)を押します。

B. ▲ と ▼ で設定するODMX-512のアドレスにカーソルを合わせ、OK または ■ (次へ)を押します。

C. ▲ と ▼ でコントロールステーションのタイプをODMX-512に設定し、OK または ■ (次へ)を押します。

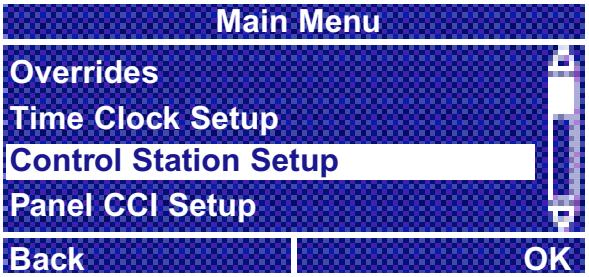
D. ▲ と ▼ でDMX起動モードを選択し、OK または ■ (次へ)を押します。

注意: DMXは、接続状態か選択したチャンネルが50%以上に設定されている場合に起動できます。

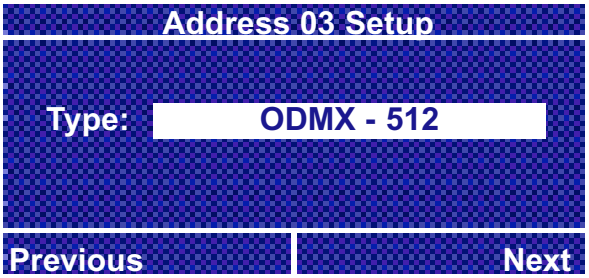
E. ▲ と ▼ でDMXチャンネルに回路を指定し、OK または ■ (次へ)を押します。

注意: 同一DMXチャンネルが複数の回路に指定される場合があります。

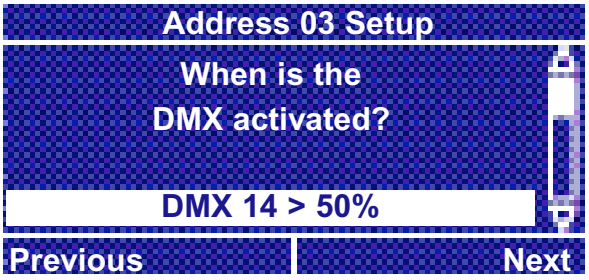
A.



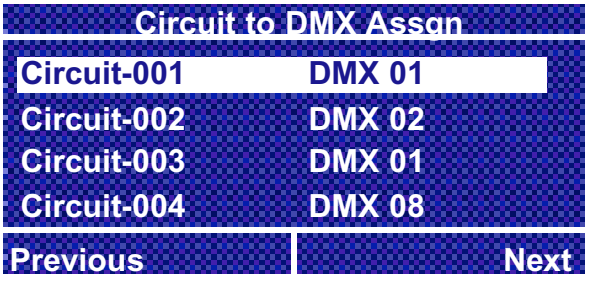
C.



D.



E.



RS232による統合

Lutron OMX-RS232コントロールステーションを使用すると、*LCP128*システムとビル管理システムなどを統合することができます。

A. メインメニューのコントロールステーション設定に ▲ と ▼ でカーソルを合わせ、 または (OK)を押します。

B. ▲ と ▼ で{設定するOMX-RS232のアドレスにカーソルを合わせ、 または (次へ)を押します。

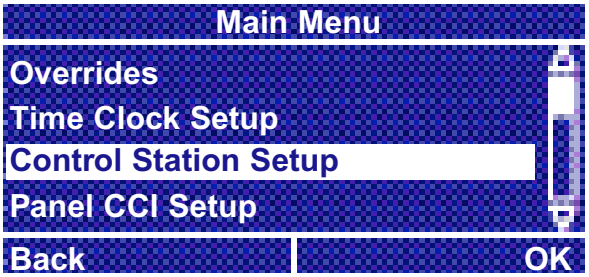
C. ▲ と ▼ でコントロールステーションのタイプをOMX-RS232に設定し、 または (完了)を押します。

GRAFIK 6000[1]のRS232プロトコルを使用する

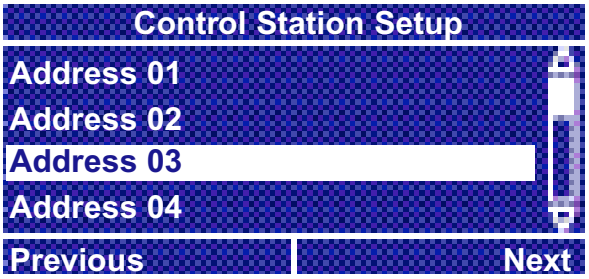
OMX-RS232には、各コマンド実行方法を記載した詳細な説明書とプロトコルが同梱されています。上記説明書にあるコマンドの一部が、次のとおり*LCP128* システムで使用できます。

コマンド	*LCP128*の動作
フェードレベル:	オフまでのフェードパターンまたはフェードタイムを設定します
マルチレベル：	回路が点滅します
レベルを取得:	レベルを要求します
シミュレーション押下:	シミュレーションボタンを押します
シミュレーション解除:	シミュレーションボタンを離します
コントロールステーションオン:	コントロールステーションをオンにします
コントロールステーションオフ:	コントロールステーションをオフにします
クロック設定：	時刻と日付を設定します
現在の時刻：	現在の時刻を要求します
天文時計：	日の出・日没の時刻を要求します
日付：	日付を要求します
タイムクロックオン:	タイムクロックをオンにします
タイムクロックオフ:	タイムクロックオフ

A.



B.



C.

イーサネットによる統合

Lutron OMX-CI-NWK-Eコントロールステーションを使用すると、*LCP128*システムとビル管理システムなどを統合することができます。

A. メインメニューのコントロールステーション設定に ▲ と ▼ でカーソルを合わせ、OK または ■ (OK)を押します。

B. ▲ と ▼ で設定するOMX-CI-NWK-Eのアドレスにカーソルを合わせ、OK または ■ (次へ)を押します。

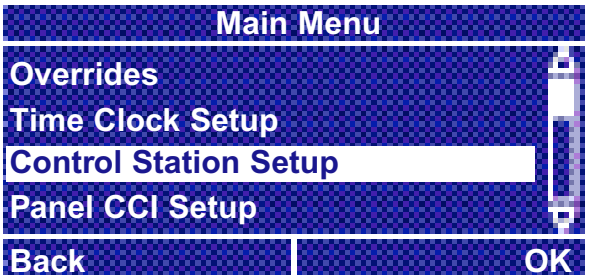
C. ▲ と ▼ でコントロールステーションのタイプをOMX-CI-NWK-Eに設定し、OK または ■ (完了)を押します。

GRAFIK 6000[1]のRS232プロトコルを使用する

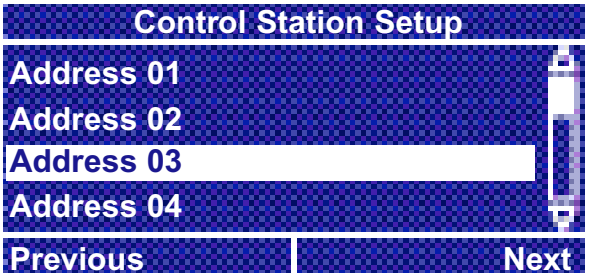
OMX-CI-NWK-Eには、各コマンド実行方法を記載した詳細な説明書とプロトコルが同梱されています。上記説明書にあるコマンドの一部が、次のとおり*LCP128* システムで使用できます。

コマンド	*LCP128*の動作
フェードレベル：	オフまでのフェードパターンまたはフェードタイムを設定します
マルチレベル：	回路が点滅します
レベルを取得:	レベルを要求します
シミュレーション押下:	シミュレーションボタンを押します
シミュレーション解除:	シミュレーションボタンを離します
コントロールステーションオン:	コントロールステーションをオンにします
コントロールステーションオフ:	コントロールステーションをオフにします
クロック設定：	時刻と日付を設定します
現在の時刻：	現在の時刻を要求します
天文時計：	日の出・日没の時刻を要求します
日付：	日付を要求します
タイムクロックオン:	タイムクロックをオンにします
タイムクロックオフ:	タイムクロックオフ

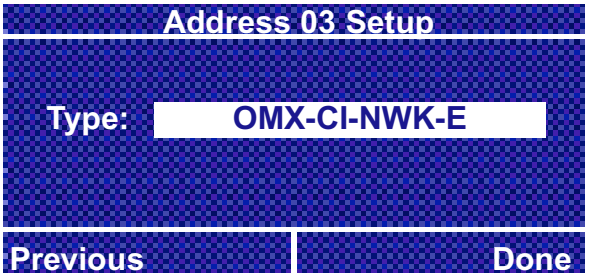
A.



B.



C.



タイムクロックイベント

タイムクロックイベントを使用すると、特定の時刻や毎日の日の出・日没に合わせて、シーンを自動的に起動したり、業務時間外モードを開始・終了したりできます。47通りのスケジュールが可能で各曜日と40の祝祭日スケジュールが設定できます最大で500までのイベントまで可能で、一日または各祝祭日毎では25までのイベントが可能です。祝祭日の設定は、週間スケジュールの設定常に優先して作動します。

タイムクロックイベントで可能な動作は次のとおりです。

- シーン またはカスタムシーン - 指定した回路があらかじめプログラミングされたシーンやカスタムシーンを開始します。
- コントロールステーションのオン•オフ - コントロールステーションをオンまたはオフにします。
- 業務時間外の開始- 業務時間が終了すると照明を翌日の業務開始時間までオフにしておく節電モードを開始します。まず、空間のシーンや照明レベルのパターンを呼び出します。(業務時間外開始).オフにするようにプログラミングされた照明が、退出時間を知らせるため点滅します。(点滅回数は点滅カウントで設定できます)。引き続き照明を点灯させたい場合にボタンが押せるように、一定時間は引き続き点灯しています。(点灯時間は時間差オフでプログラミングします).点灯ボタンが押されず、一定時間が経過すると照明は自動的にオフになります。

  システムが業務時間外モードや時間差オフの間にボタンが押されたり、人感センサーが作動またはその他のタイムクロックイベントが発生すると、照明はオンになり、プログラミングされている時間だけオンになった後(お知らせ時間)、点滅(回数は点滅カウントで設定)、続いて時間差オフ後にオフになります。
- 業務時間外の終了- 業務時間外が終了すると、照明はプログラミングされている状態に戻ります。

  業務時間外設定のサンプル：

A. 業務時間外イベントを開始業務時間外シーンが呼び出されます。照明がオフになる前の点滅を開始し、時間差オフのカウントダウンが始まります。

B. システムが業務時間外になります。

C. 照明をオンにするためにボタンが押されます。

D. 照明が点滅し、まもなくオフになる事を知らせます。

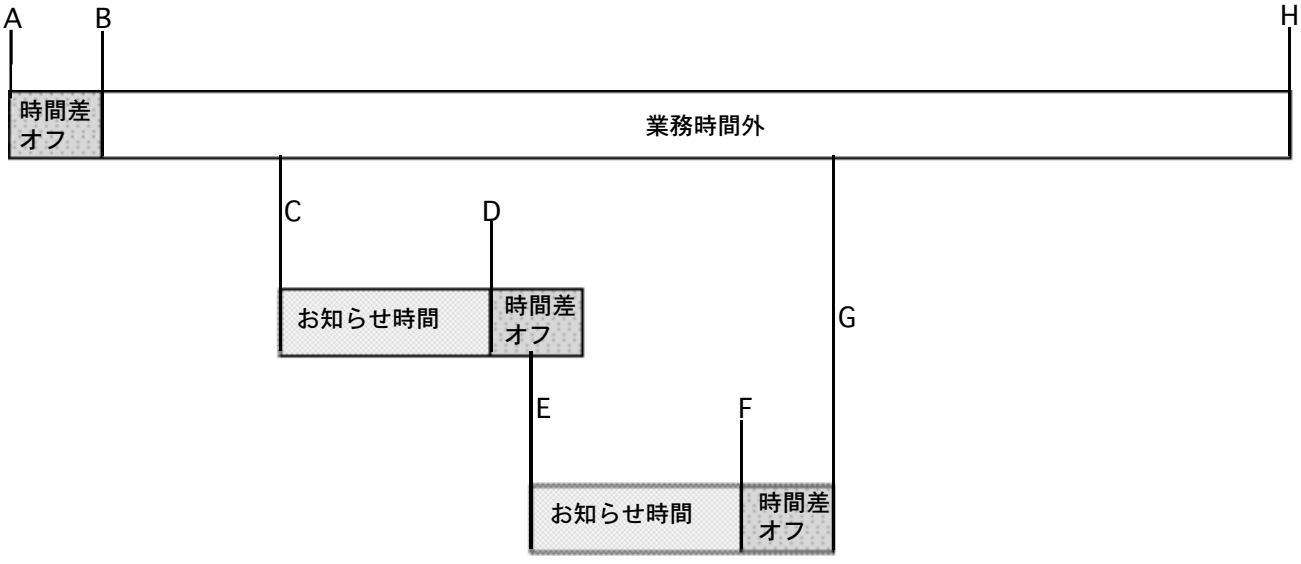
E. 照明をオンのままにするためにボタンが押されます。

F. 照明が点滅し、まもなくオフになる事を知らせます。

G. 照明がオフになります。

H. 業務時間外終了イベント。

ステップ5を続行する前にこの説明書の裏面にあるタイムクロックイベント表の記入を完了させてください。各イベントを設定する時刻やイベントの内容を記録しておいてください。



週間イベントを追加する

週間イベントは週の決まった日に実行されます。

A. メインメニューのタイムレコーダー設定に ▲ と ▼ でカーソルを合わせ、OK または ⊞(OK)を押します。

B. ▲ と ▼ でイベント追加にカーソルを合わせ、OK または ⊞ (OK)を押します。

C. ▲ と ▼ で週間イベントの追加にカーソルを合わせ、OK または ⊞ (OK)を押します。

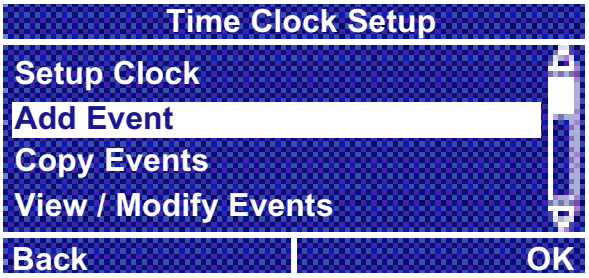
D. ▲ と ▼ でイベントを追加する曜日を選択し、OK または ⊞ （次へ）を押します。

E. ▲ と ▼ で定刻か、毎日の日没・日の出によって決まる時刻かを選択します。▶ を押して時刻または補正時間を設定します。▲ と ▼ で時間を調整し、OK または ⊞ (次へ)を押します。

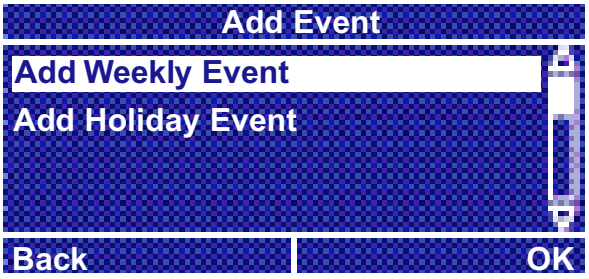
F. ▲ と ▼ で、このイベントで実行する動作を選択します。シーン、、カスタムシーン、コントロールステーションのオン・オフ、業務時間外開始、または業務時間外終了から選択し、OK または ⊞ (次へ)を押します。動作の種類については、ステップ5の冒頭をご覧ください。

***注意:**業務時間の終了はこのステップで完了です。*

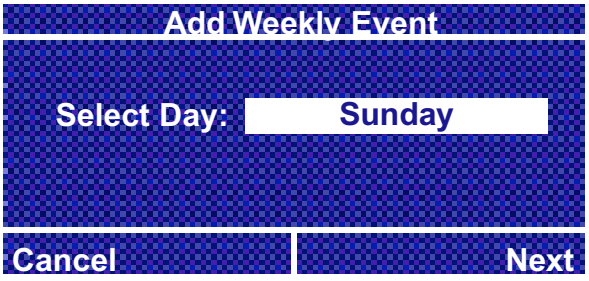
B.



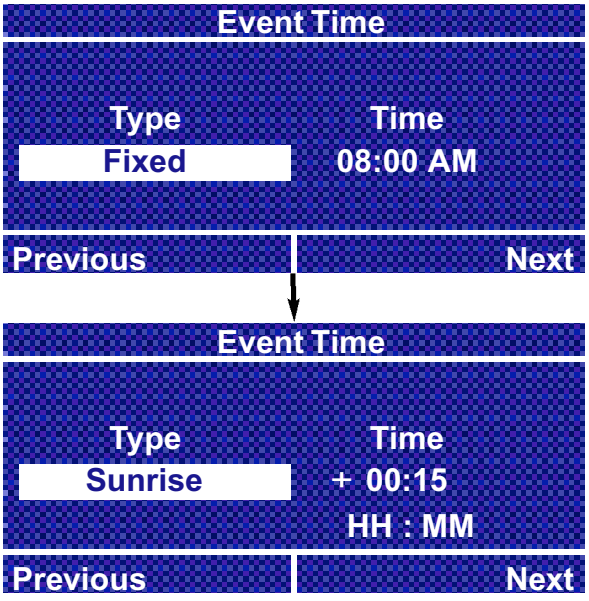
C.



D.



E.

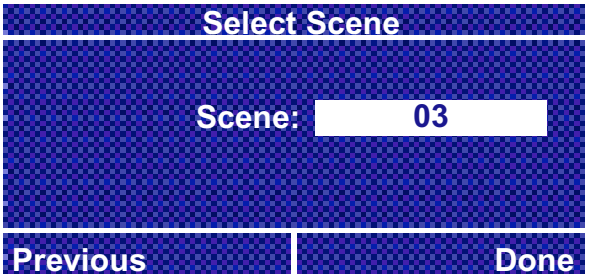


週間イベントを追加する(続き)

シーン動作を選択した場合

G. ステップFでシーンを選択した場合は、▲ と ▼ で希望のシーンを選択し、 または (完了)を押します。
同じスケジュールに別のイベントを追加する場合は、「他のイベントも編集しますか?」というメッセージが表示されたときに「はい」を選択します。

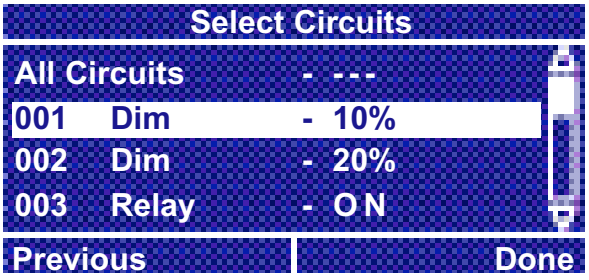
G.



カスタムシーン動作を追加した場合

G. ステップFで、カスタムシーンを選択した場合、カスタムシーンの回路を設定します。設定後、 または (完了)を押します。
同じスケジュールに別のイベントを追加する場合は、「他のイベントも編集しますか?」というメッセージが表示されたときに「はい」を選択します。

G.



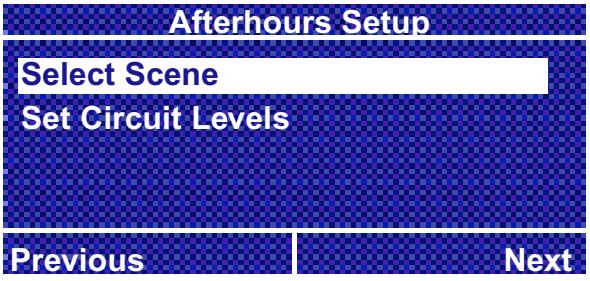
業務外時間の開始を選択した場合

G. ステップFで業務時間外の開始を選択した場合は、シーンの選択または照明レベルの設定を選択します。設定後、 または (次へ)を押します。

H. シーンを選択するか、業務時間外モードで使用する照明レベルを設定します。設定後、 または (完了)を押します。業務時間外モードの使用に関する詳細は、ステップ5の始めをご覧ください。
同じスケジュールに別のイベントを追加する場合は、「他のイベントも編集しますか?」というメッセージが表示されたときに「はい」を選択します。

注意:*業務時間外お知らせ用の点滅回数設定と時間差オフについてはこの後ステップ5に説明があります。*

G.



祝祭日イベントを追加する

祝祭日イベントは特定の日に設定し、1～90日間継続続できます。

A. メインメニューのタイムレコーダー設定に ▲ と ▼ でカーソルを合わせ、OKまたは (OK)を押します。

B. ▲ と ▼ でイベントの追加にカーソルを合わせ、OK または (OK)を押します。

C. ▲ と ▼ で祝祭日イベントの追加にカーソルを合わせて、OK または (OK)を押します。

D. ▲ と ▼ でイベントを追加する祝祭日を選択し、OK または (次へ)を押します。
祝祭日を新しく設定するには祝祭日の追加を選択します。

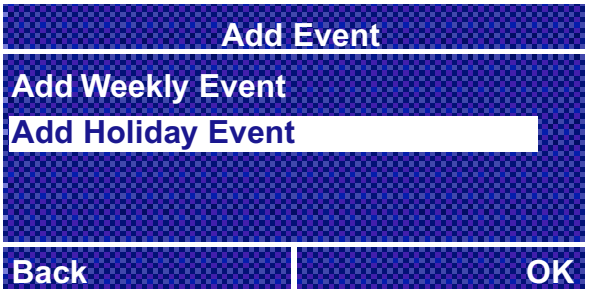
- 祝祭日の開始日を入力します。
- 祝祭日の期間を入力します。例えば、新年は12月31日から2日間(12月31日から1月1日)のように設定します。

E. ▲ と ▼ で定刻か、毎日の日没・日の出によって決まる時刻かを選択します。▶ を押して時刻または補正時間を設定します。▲ と ▼ で時間を調整し、OK または (次へ)を押します。

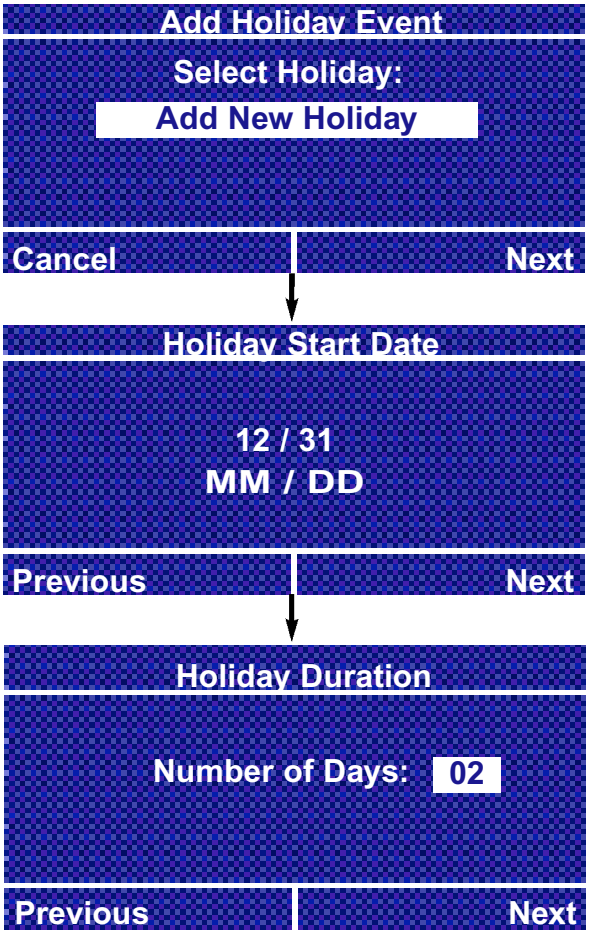
F. ▲ と ▼ で、このイベントで実行する動作を選択します。シーン、、カスタムシーン、コントロールステーションのオン・オフ、業務時間外開始、または業務時間外終了から選択し、OK または (次へ)を押します。動作の種類については、ステップ5の冒頭をご覧ください。
週間イベントを設定したときと同様の手順で動作をプログラミングします。ステップ5の「週間イベントを追加する」をご覧ください。

***注 意:**業務時間の終了はこのステップで完了です。*

C.



D.



イベントをコピーする

A. メインメニューの ▲ と ▼ でタイムクロック設定にカーソルを合わせ、⏎ または ⊞ (OK)を押します。

B. ▲ と ▼ でイベントのコピーにカーソルをあわせ⏎ または ⊞ (OK)を押します。

C. ▲ と ▼ で週間イベントのコピーまたは祝祭日イベントのコピーにカーソルを合わせ、⏎ または ⊞ (OK)を押します。

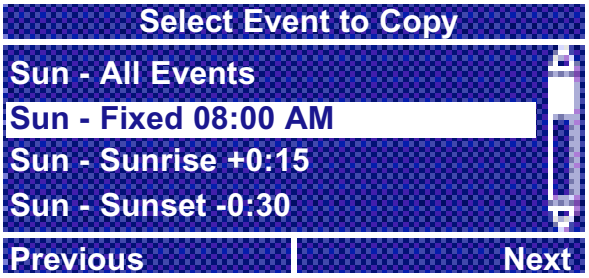
D. ▲ と ▼ で、コピーする曜日または祝祭日を選択し、⏎ または ⊞ (次へ)を押します。

E. ▲ と ▼ でコピーするイベントを選択し、⏎ または ⊞ (次へ)を押します。この曜日または祝祭日にプログラミングしてあるイベントをすべてコピーする場合は、すべてのイベントを選択します。

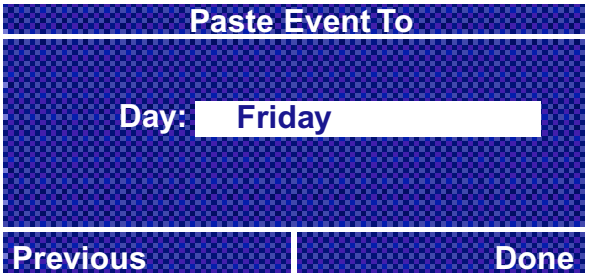
F. ▲ と ▼ でペースト先の曜日または祝祭日を選択し、⏎ または ⊞ (次へ)を押します。リストでは曜日の後に祝祭日が表示されます。祝祭日を追加する場合は、リストの最後で祝祭日の追加を選択し、既存の祝祭日データを変更して、追加の祝祭日を保存します。

他の曜日や祝祭日にもペーストする場合は、「まだペーストしますか?」のメッセージが表示されたら、はいを選択します。

E.



F.



イベントを削除する

A. メインメニューの ▲ と ▼ でタイムクロックの設定にカーソルを合わせて、⏎ を押します。

B. ▲ と ▼ でイベントの削除にカーソルを合わせます。

C. ▲ と ▼ で週間イベントの削除または祝祭日イベントの削除にカーソルを合わせます。

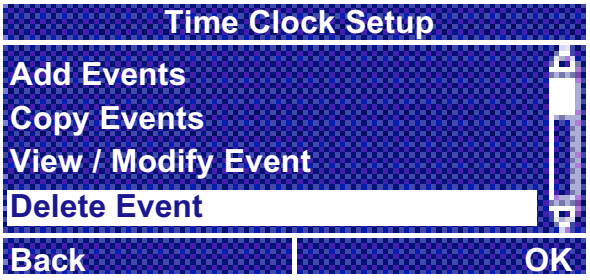
D. ▲ と ▼ でイベントを削除する曜日または祝祭日を選択します。

E. ▲ と ▼ で削除するイベントを選択します。スケジュールの全てのイベントを削除する場合、全イベントを選択します。

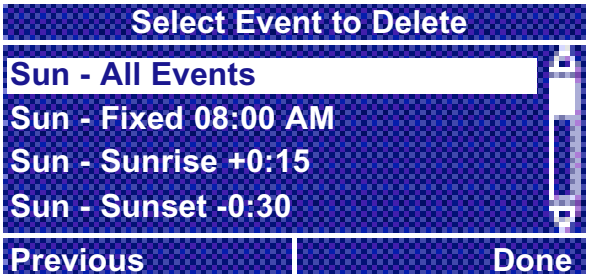
F. イベントの削除を確認するメッセージが表示されます。削除する場合ははい、削除しない場合はいいえを選択します。

その曜日や祝祭日から他のイベントも削除する場合は、「まだ削除しますか?」のメッセージが表示されたら、はいを選択します。

B.



E.



イベントを表示・編集する

A. メインメニューの ▲ と ▼ でタイムクロック設定にカーソルを合わせ、OK または ⊞ (OK)を押します。

B. ▲ と ▼ でイベントの表示/編集にカーソルをあわせ OK または ⊞ (OK)を押します。

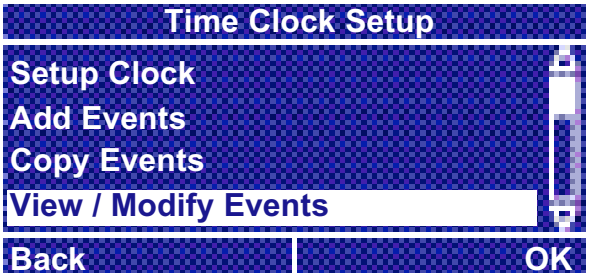
C. ▲ と ▼ で週間イベントの編集または祝祭日イベントの編集にカーソルを合わせ、OK または ⊞ (OK)を押します。

D. ▲ と ▼ で表示または編集するイベントの曜日や祝祭日を選択し、OK または ⊞ (次へ)を押します。

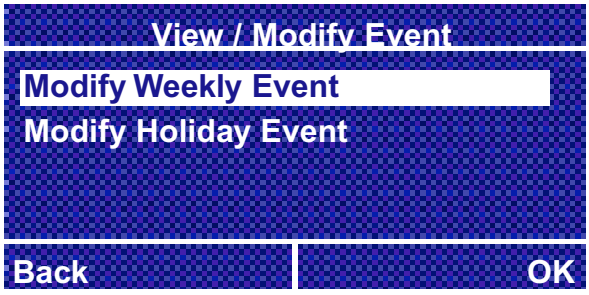
E. ▲ と ▼ で表示または編集するイベントを選択し、OK または ⊞ (次へ)を押します。

F. これで選択イベントを編集できます。.手順についてはステップ5の「週間イベントを追加する」または「祝祭日のイベントを追加する」をご覧ください。

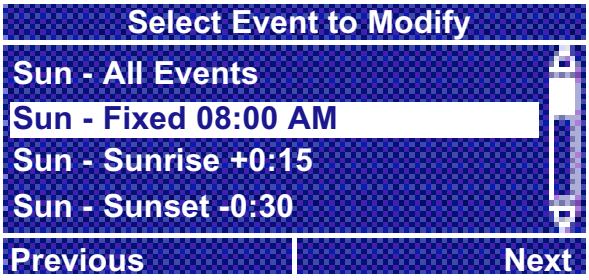
B.



C.



E.



業務時間外設定

A. メインメニューの ▲ と ▼ で調光盤の設定にカーソルを合わせて、OK または ⊞ (OK)を押します。

B. ▲ と ▼ で業務時間外の設定にカーソルを合わせ、OK または ⊞ (OK)を押します。

C. ▲ と ▼ でお知らせ時間を1～180分の間で設定し、OK または ⊞ (次へ)を押します。

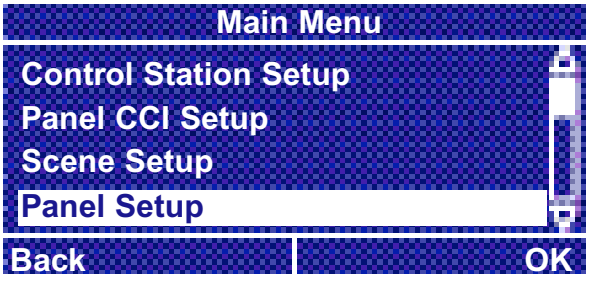
D. ▲ と ▼ で点滅カウントを1～15の間で設定し、OK または ⊞ (次へ)を押します。

E. ▲ と ▼ で時間差オフを1～180分の間で設定し、OK または ⊞ (次へ)を押します。

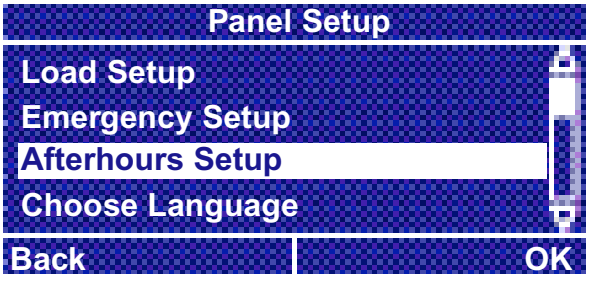
注意:
業務時間外モード開始の設定は、ステップ5の「週間イベントを追加する」をご覧ください。

カリフォルニア法規24で認められているオフまでの時間差は、最長で120分です。

A.



B.



調光盤接点入力

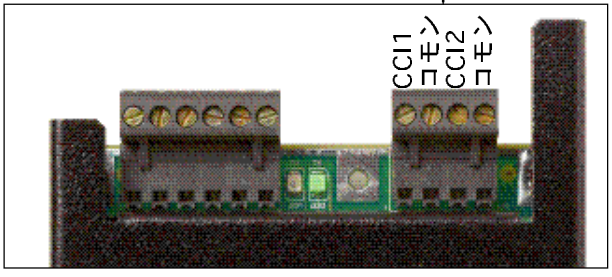
*LCP128*には接点入力が2つあります。(下図をご覧ください).接点の開閉それぞれに異なる動作を設定できます。設定できる動作は次のとおりです。

- シーンまたはカスタムシーン- 接点入力が起動されると、指定した回路がプログラミングされたシーンを開始します。シーンで接点出力を制御することもできます。
- タイムクロックのオンまたはオフ - タイムクロックをオンまたはオフにします。
- 切り替え - 接点入力が作動すると、指定された回路がオンとオフを切り替えます。指定された回路に両方の状態がある場合は(一部がオン、一部オフ)、照明は点灯します。
- 時間差オフ - 接点入力が作動すると、指定された回路は、あらかじめ設定された一定時間(1～90分)経過後、オフになります。

ステップ6を続行する前にこの説明書の裏面にあるコントロールステーション表の記入を完了させてください。各接点が作動させる機能を記録しておいてください。次のいずれかに指定してください。LCP盤1 CCI 1開、LCP盤1 CCI 1 閉、 LCP盤1 CCI 2 開、LCP盤1 CCI 2 閉、これを必要に応じてLCP盤8まで続けます。

LCP盤CCI端子の識別

1: 15V⎓ または24V⎓ CCI 1
2: コモン CCI 1
3: 15V⎓ または24V⎓ CCI 2
4: コモン CCI 2



*LCP128*コントローラ上部

LCP盤接点入力を設定する

注意:*Lutron OMX-AVコントロールステーションに接続されている接点入力については、ステップ4をご覧ください。*

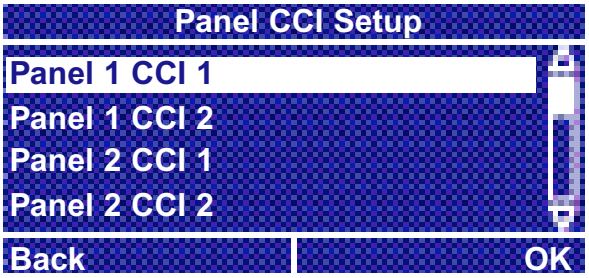
A. メインメニューの ▲ と ▼ でLCP盤CCIの設定にカーソルを合わせ、OK または ⊞ (OK)を押します。

B. ▲ と ▼ で設定する接点入力を選択し、OK または ⊞ (OK)を押します。

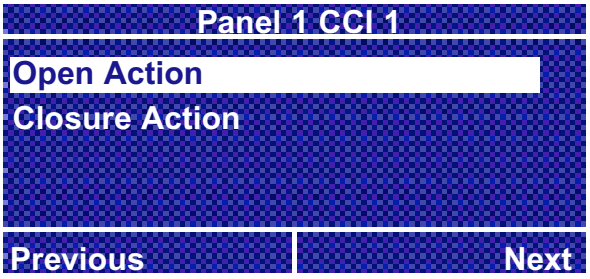
C. ▲ と ▼ で、接点が開く時と閉じる時のどちらの動作を設定するのかを選択し OK または ⊞ (次へ)を押します。

D. ▲ と ▼ でこのCCIが行う動作の種類を選択します。シーン、カスタムシーン、タイムクロックのオン・オフ、時間差オフ、切り替えまたは無変化。次の手順で、ご希望の動作を設定してください。

B.



C.



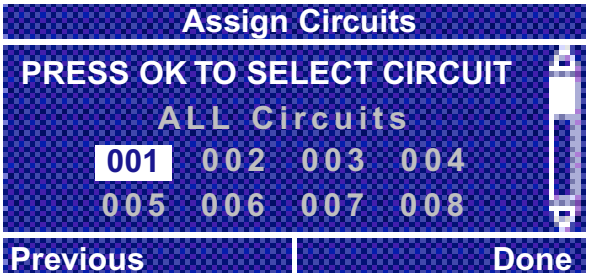
切り替え動作を選択した場合

E. ステップDで、切り替えを選択した場合、回路選択画面に回路一覧が表示されます。指定されていない回路は破線で表示されます。カーソルを回路番号に合わせて OK を押し、指定または非指定(破線)を切り替えます。全回路を選択し、OK を押すとすべての回路を切り替えることができます。回路のプログラミングが完了したら ⊞ を押します。

F. この動作を行う調光回路には、▲ と ▼ でフェードタイプを設定します。

G. 調光回路とスイッチ回路の組み合わせの場合は、▲ と ▼ でスイッチがいつ作動するか設定します。(フェードの開始またはフェードの終わり)設定後、OK または ⊞ を押します。

E.

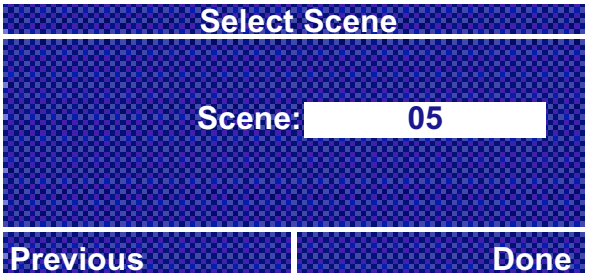


接点入力を設定する(続き)

シーン動作を選択した場合

E. ステップDでシーンを選択した場合は、▲ と ▼ でシーンを選択し ⏎ または ⊞ (完了)を押します。

E.



カスタムシーン動作を選択した場合

E. ステップDで、カスタムシーンを選択した場合、回路選択画面に回路一覧が表示されます。▲ と ▼ を使用して回路を選択し、◀ と ▶ でその回路の設定を変更します。同時に全ての回路を変更する場合は、全回路を選択し、◀ と ▶ で設定を変更します。

注意：全回路の機能で、全調光回路の照度の調整や、全回路のオン・オフが一度に実行できます。

回路設定は、次のように回路のタイプによって異なります。

スイッチ： ON、OFF、---(無変化)

調光： オフ、1～100%、---(無変化)

モーター： 開ける、閉める、停止、上げる、下げる

ファン： 弱、中、中強、強(日本仕様にはありません)

注意：---(無変化)設定にすると、該当シーンではこの回路が作動しなくなります。

このカスタムシーンの回路プログラミングがすべて終了したら、⏎ または ⊞ (次へ)を押します。

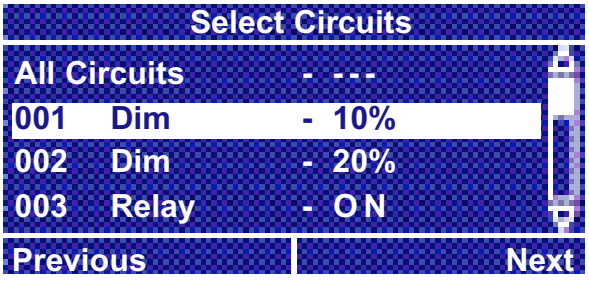
F. 接点出力のあるコントロールステーション機器(OMX-AV or OMX-CCO-8)がシステムに接続された場合のみ、CCOアドレス選択画面表が示されます。

▲ と ▼ でプログラミングしているシーンに関係する出力を選択します。◀ と ▶ でその出力の設定を次のように変更します。開いている状態を維持、閉じている状態を維持、一時パルスまたは--- (無作動).このカスタムシーンの出力プログラミングがすべて終了したら、⏎ または ⊞ (完了)を押します。

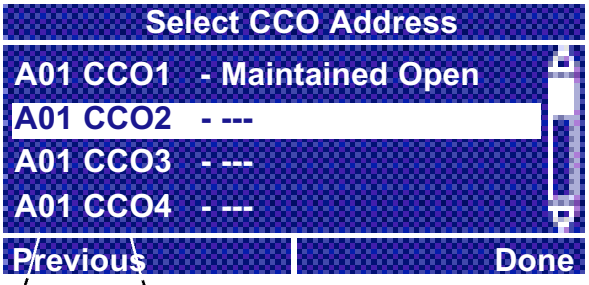
G. カスタムシーンで作動する調光回路には、▲ と ▼ でフェードタイプを設定後、⏎ または ⊞ を押します。

H. 調光回路とスイッチ回路の組み合わせの場合は、▲ と ▼ でスイッチがいつ作動するか設定します。(フェードの開始またはフェードの終わり)設定後、⏎ または ⊞ を押します。

E.

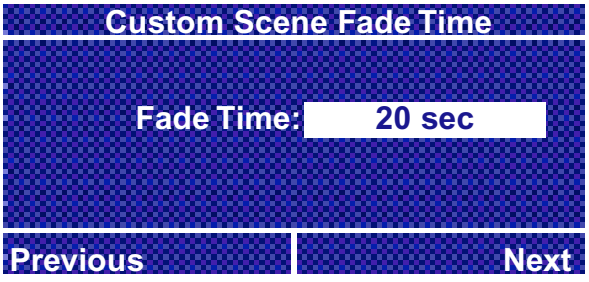


F.

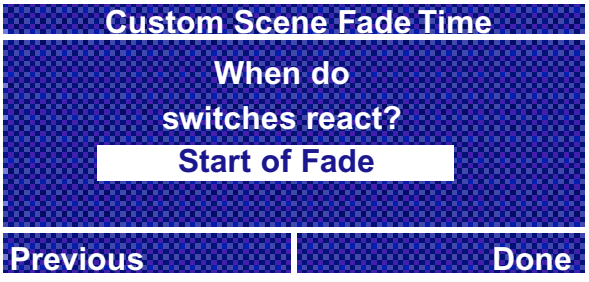


アドレス番号　接点出力番号

G.



H.



接点入力を設定する(続き)

時間差オフ動作を選択した場合

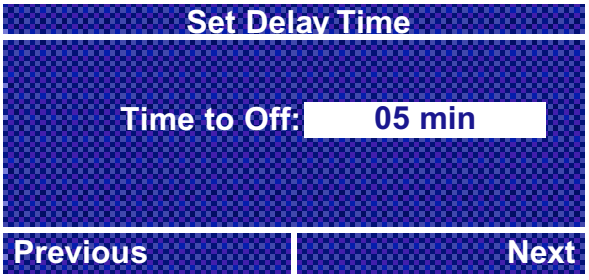
E. ステップDで時間差オフを選択した場合は、▲ と ▼ でオフまでの時間を設定し、OK または # (次へ) を押します。

F. 回路指定画面には回路一覧が表示されます。指定されていない回路は破線で表示されます。カーソルを回路番号に合わせて OK を押し、指定または非指定(破線)を切り替えます。全回路を選択し、OK を押すとすべての回路を切り替えることができます。回路のプログラミングが完了したら # を押します。

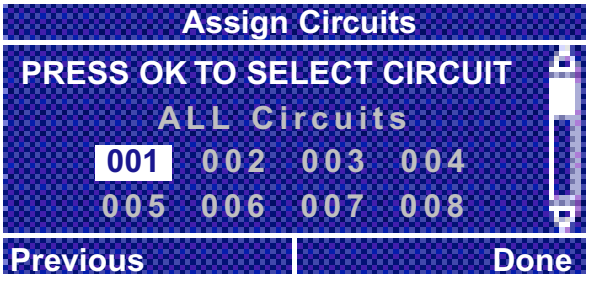
G. この動作を行う調光回路には、▲ と ▼ でフェードタイプを設定し、OK または # を押します。

H. 調光回路とスイッチ回路の組み合わせの場合は、▲ と ▼ でスイッチがいつ作動するか設定します。(フェードの開始またはフェードの終わり)設定後、OK または # を押します。

E.



F.



非常時電源モード

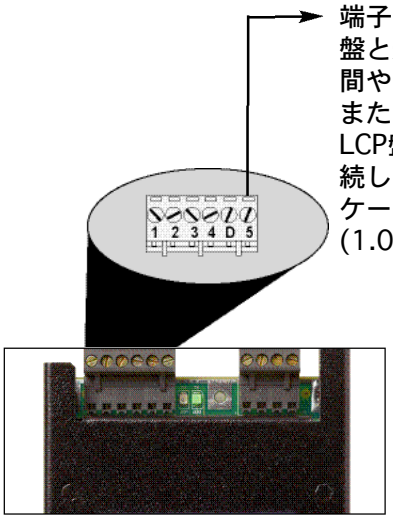
通常給電が途切れた場合に非常時電源モードを設定する場合のみ、このステップを行ってください。非常時電源モードの間は、全てのステーション入力やタイムクロックイベントは無効になります。このステップでは、LCP盤に非常用回路があるかを確認し、ある場合には非常時設定方法を説明します。LCP盤が複数ある場合、非常時設定はメインLCP盤と各リモートLCP盤に行います。

- 通常電源で給電されているパネルを確認します。その非常用スイッチを左の位置に動かします。下図を参照してください。
- 通常/非常用LCP盤は、すべて非常用スイッチを右の位置に移動します。下図を参照してください。
- 通常LCP盤および通常/非常用LCP盤は、*LCP128* コントローラにあるリンクコネクターの端子5に探知線で接続されている必要があります。(配線の詳細については該当するLCP盤の承認図をご覧ください)。

この設定では、通常/非常用LCP盤は通常LCP盤の給電状態を「感知」します。通常盤の給電が途切れると、通常/非常用LCP盤が非常時設定に切り替わります。(出荷時設定ではすべての回路がオンになっています)。

注意：

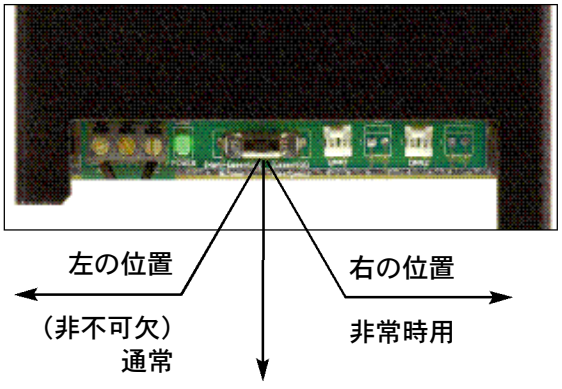
- *UL924規格に適合する必要がある場合は、Lutron社の非常時照明インターフェース(LUT-ELI-3PH/日本未発売)をご使用ください。LUT-ELI-3PHは通常給電の3位相全てで、通常電源線を感知します。電源位相がひとつでも失われると、LUT-ELI-3PHが**LCP128コントローラの**端子5に信号を送信します。**非常用スイッチ**が右の位置に設定されていると、非常用照明設定が作動します。LUT-ELI-3PHは1つまたは複数のLCP盤でお使いいただけます。*
- *全てのLCP盤への通常電源を切って、通常/非常用に設定したLCP盤が非常電源で作動することを確認してください。*
- *非常用スイッチが中央の位置にある場合(出荷時の状態)、調光盤の端子5は非常時に反応しません。*



端子5を使用し、通常LCP盤と通常/非常用LCP盤の間や、LUT-ELI-3Pと1台または複数の通常/非常用LCP盤の間に、探知線を接続します。探知線の推奨ケーブルは18番AWG (1.0mm²)です

*LCP128*コントローラ上部

非常用スイッチの3位置は*LCP128*コントローラの底面にあります



非常用設定のレベルを調整する

A. メインメニューの ▲ と ▼ で調光盤の設定にカーソルを合わせて、OK または ■ (OK)を押します。

B. ▲ と ▼ で非常用設定にカーソルをあわせ OK または ■ (OK)を押します。

C. LCP盤に非常用機能があるかどうかを確認するメッセージが表示されたら、▲ と ▼ ではいを選択し、OK または ■ (次へ)を押します。

D. 非常用設定画面に、全ての回路とその出荷時設定が表示されます。▲ と ▼ を使用して回路を選択し、◀ と ▶ でその回路の設定を変更します。同時に全ての回路を変更する場合は、全回路を選択し、◀ と ▶ で設定を変更します。

注意:全回路の機能で、全照度の調整や、全回路のオン・オフが一度に実行できます。

回路設定は、次のように回路のタイプによって異なります。

スイッチ: ON、OFF、---(無変化)

調光: オフ、1～100%、---(無変化)

モーター: 開ける、閉める、停止、上げる、下げる （日本仕様にはありません）

ファン: 弱、中、中強、強 （日本仕様にはありません）

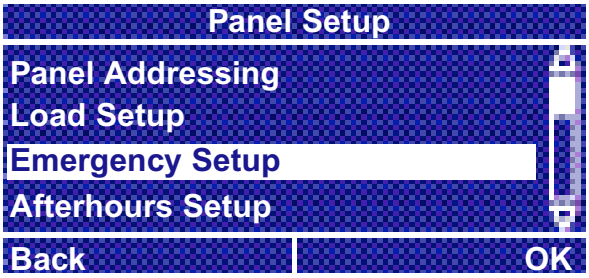
注意: ---(無変化)設定にすると、非常時モードでは回路は作動しなくなります。

この非常時モードの回路プログラミングがすべて終了したら、OK または ■ (次へ)を押します。

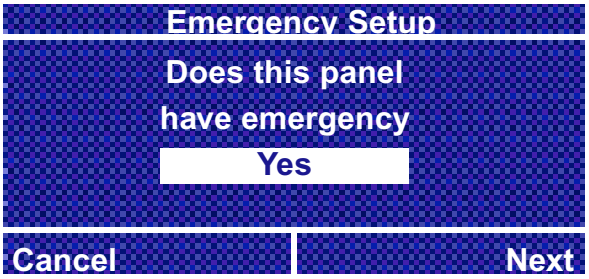
E. 接点出力のあるコントロールステーション機器(OMX-AV or OMX-CCO-8)がシステムに接続された場合のみ、CCOアドレス選択画面表が示されます ▲ と ▼ で一覧をスクロールし、プログラミングしているボタンに関係する出力を選択します。◀ と ▶ でその出力の設定を次のうちの1つに変更します。開いている状態を維持、一時開く、一時閉じる、閉じた状態を維持または--- (無変化)。出力のプログラミングが終了したら、OK または ■ (完了)を押してデータベースを更新します。

F. LCP盤が複数あるシステムでは、この手順で各リモートLCP盤に非常時設定をプログラミングしてください。

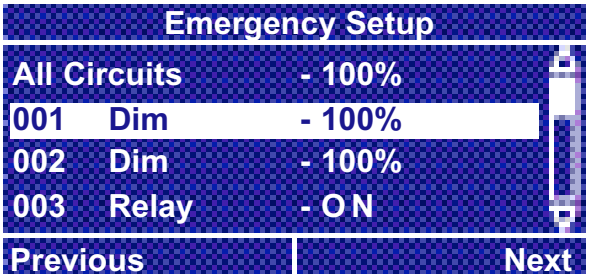
B.



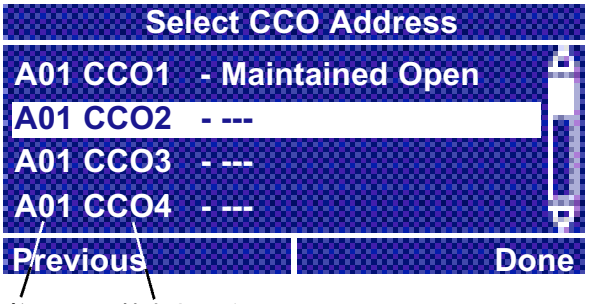
C.



D.



E.



LCP128™ システムのプログラミングはこれで完了しました。これからすぐにご使用いただけます。

重要:

この説明書はお手元に保存しておいてください。コントロールステーションの位置、調光盤、モジュールタイプ、負荷タイプ、コントロールステーション表の記入を完了させてください。

ここからから先は参考資料です。

本説明書および弊社の製品に関するご意見をお待ちしております。
ご意見やご提案などがございましたら、03-5575-8411までお
電話ください。ご協力ありがとうございます。

手動制御

概要

状況によって、システムにプログラミングした設定を一時的に変更しなければならない場合があります。(例えば、ある回路の照度だけを調整するなど)。

*LCP128*コントローラでは、次の項目の手動制御が可能です。

- 照度の変更 - 照度や回路のオン・オフが直接設定できます。変更はすぐに行われ、LCPコントローラのLCDに照度レベル設定画面が表示されている限り維持されます。完了を押して照度の設定画面を終了すると、次にコントロールステーションからの入力かタイムクロックイベントがあるまで、照度は変更された設定を維持します。キャンセルを押して照度の設定画面を終了すると、照度は元の状態に戻ります。
- シーンの変更 - 別のシーンを使用する回路設定に直接変更する。変更はすぐに行われ、LCPコントローラのLCDにシーンの選択画面が表示されている限り維持されます。完了を押してシーンの設定を終了すると、次にコントロールステーションからの入力かタイムクロックイベントがあるまで、照度は変更された設定を維持します。キャンセルを押してシーンの選択画面を終了すると、照度は元の状態に戻ります。
- タイムクロックの変更 - 全てのタイムクロックイベントを有効または無効にします。タイムクロックが再度有効になると、無効になっていた間のイベントは作動せず、次に予定しているイベントからコントロールが始まります。
- コントロールステーションの変更 - 全てのコントロールステーションを有効または無効にします。コントロールステーションが再度有効になったときに、ボタン入力や、キーの回転、接点が作動します。
- 業務時間外の変更 - タイムクロックが再び開始させるまで、業務時間外モードを停止します。

注 意: *全ての手動変更はメインLCP盤でのみ可能です。照度はリモートLCP盤からでも手動制御できます。*

照度を設定して回路を変更する

A. メインメニューの手動制御に ▲ と ▼ でカーソルを合わせ、⏎ または ⊞ (OK)を押します。

*注意: リモートLCP盤を使用する場合は、**メインメニュー**から**照度レベルの設定**を選択します。*

B. ▲ と ▼ で照度の設定を選択して、⏎ または ⊞ (OK)を押します。

C. 回路の現在の設定一覧が表示されます。▲ と ▼ を使用して回路を選択し、◀ と ▶ でその回路の設定を変更します。同時に全ての回路を変更する場合は、**全回路**を選択し、◀ と ▶ で設定を変更します。

*注意:**全回路**の機能で、全照度の調整や、全回路のオン・オフが一度に実行できます。*

回路設定は、次のように回路のタイプによって異なります。

スイッチ: ON、OFF、点滅

調光: オフ、1～100%、点滅

モーター: 開ける、閉める、停止、上げる、下げる　(日本仕様にはありません)

ファン: 弱、中、中強、強　(日本仕様にはありません)

*注意:**点滅**設定の点滅サイクルはオン・オフの間隔が数秒で、空間で照明を探すのに便利です。*

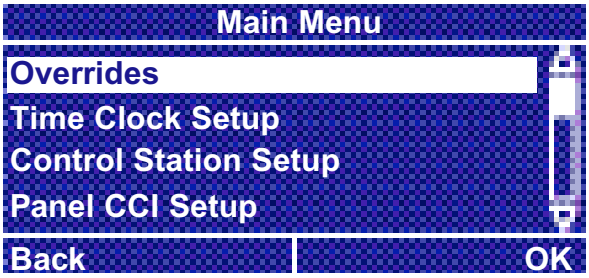
変更はすぐに反映されます。照度設定画面が表示されている限り、照度は設定された状態を維持します。この設定はその他からの入力を全て変更します。(タイムクロックイベント、ボタン入力、接点入力など)。

手動制御照度設定画面は時間切れでホーム画面やスクリーンセーバーに戻ってしまうことはありません。

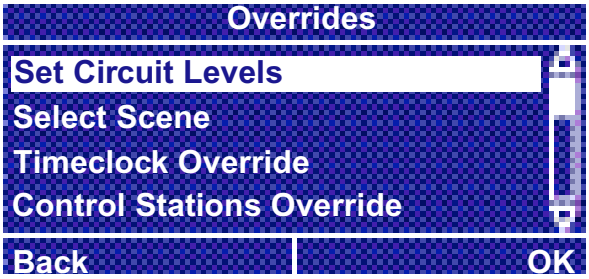
D. 照度の設定を終了し、変更した設定を維持する場合は、⏎ または ⊞ (完了)を押します。次のコントロールステーションからの入力やタイムクロックイベントがあるまで、照明は手動制御による設定を維持します。

回路レベル設定画面を終了し、回路を手動変更前の元の状態に戻すには、⊠ (キャンセル)を押します。

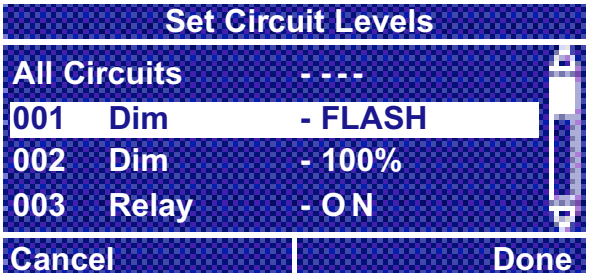
A.



B.



C.



シーンを使用する回路を変更する

A. メインメニューの手動制御に ▲ と ▼ でカーソルを合わせ、OK または ⊞ (OK)を押します。

B. ▲ と ▼ でシーンの選択にカーソルをあわせ OK または ⊞ (OK)を押します。

C. ▲ と ▼ でシーンを選択し、OK または ⊞ (完了)を押します。

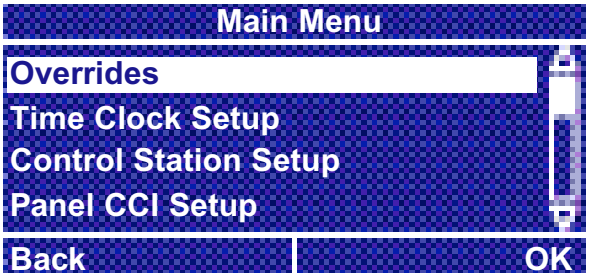
変更はすぐに反映されます。シーン選択画面が表示されている限り、回路は選択されたシーンを維持します。この設定はその他からの入力を全て変更します。(タイムクロックイベント、ボタン入力、接点入力など)。

手動制御シーン選択画面は、時間切れでホーム画面やスクリーンセーバーに戻ってしまうことはありません。

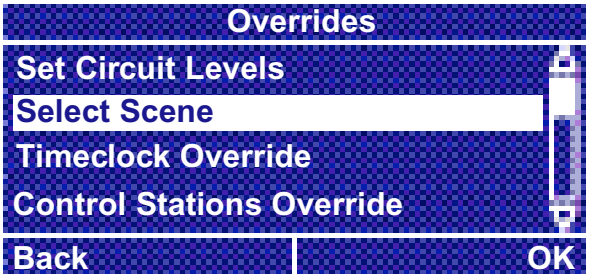
D. シーンの選択を終了し、シーン設定を維持する場合は、OK または ⊞ (完了)を押します。次のコントロールステーションからの入力やタイムクロックイベントがあるまで、照明は手動制御による設定を維持します。

シーン選択画面を終了し、回路を手動変更前の元の状態に戻すには、⊠ (キャンセル)を押します。

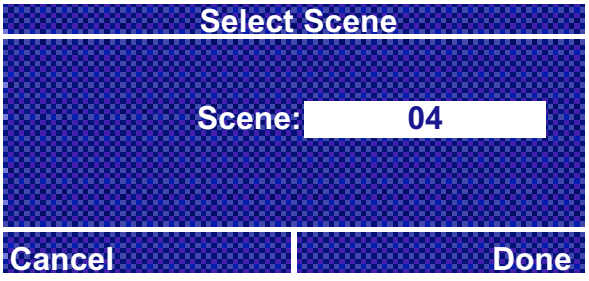
A.



B.



C.



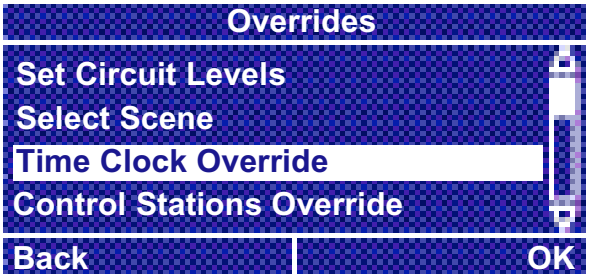
全てのタイムクロックイベントを有効または無効にする

A. メインメニューの手動制御に ▲ と ▼ でカーソルを合わせ、OK または ■ (OK)を押します。

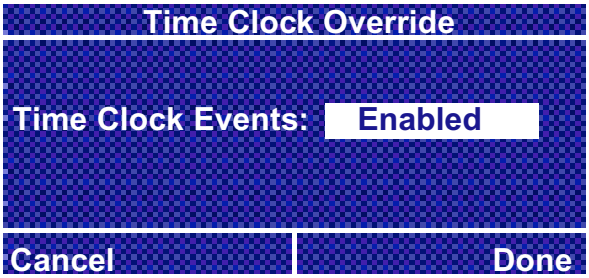
B. ▲ と ▼ でタイムクロックの変更にカーソルをあわせOK または ■ (OK)を押します。

C. ▲ と ▼ でオフまたはオンに設定を変更し、OK または ■ (完了)を押します。

B.



C.



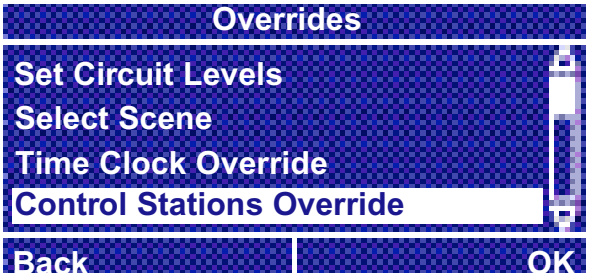
コントロールステーションを有効または無効にする

A. メインメニューの手動制御に▲ と ▼ でカーソルを合わせ、OK または ■ (OK)を押します。

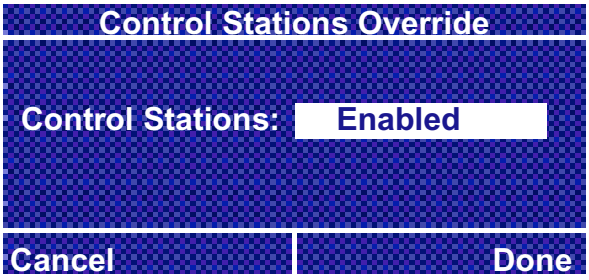
B. ▲ と ▼ でコントロールステーションの変更にカーソルをあわせ OK または ■ (OK)を押します。

C. ▲ と ▼ で設定を無効または有効に変更して、OK または ■（終了）を押します。

B.



C.



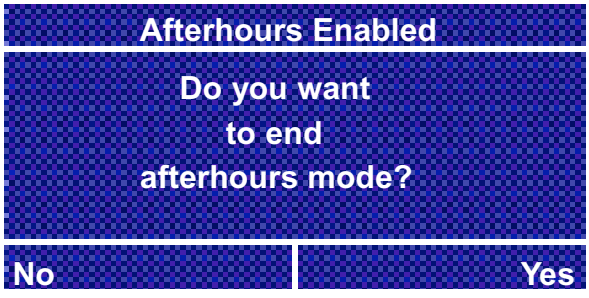
業務時間外モードを終了するには

A. メインメニューの手動制御に ▲ と ▼ でカーソルを合わせ、OK または ■ (OK)を押します。

B. ▲ と ▼ で業務時間外の手動制御にカーソルを合わせOK または ■ (OK)を押します。

C. 画面のタイトルは業務時間外モードが現在有効な状態か無効な状態かを示しています。業務時間外モードを停止する場合は ■ (はい)を押します。(停止しない場合は ★ いいえを押します)。

C.



LCPコントローラのロックまたはロック解除をする

概要

*LCP128*コントローラは、システム設定への不正アクセスを防ぐため、パスワードが設定されている場合があります。ユーザーが設定する一定時間(1～90分)、LCPコントローラのボタンが操作されないと、LCPコントローラは自動的にロックされます。ロックを設定する際に、4つ数字からなるパスワードを設定する必要があります。LCPコントローラがロックされた場合、どのメニューにアクセスするにもこのパスワードの入力が必要になります。また、ロックがかかるまでの時間(ロックアウト設定)を変更する場合にもパスワードの入力が必要です。

LCPコントローラにロックを設定する

A. メインメニューのパネル設定に ▲ と ▼ でカーソルを合わせ、OK または ■ (OK)を押します。

B. ▲ と ▼ でパスワードによる保護にカーソルを合わせ、OK または ■ (OK)を押します。

C. ▲ と ▼ でパスワードの変更またはロックアウト時間の設定を選択して、OK または ■ (OK)を押します。

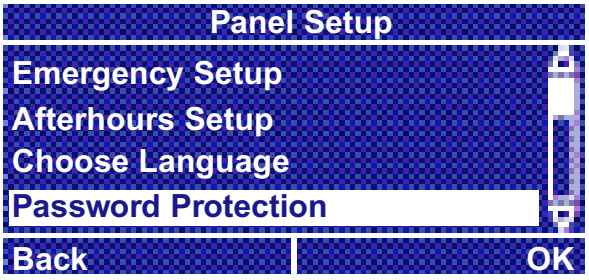
D. ロックアウト時間の設定を選択した場合は、▲ と ▼ でロックするまでの無操作時間（コントローラーのボタンを操作しない時間）を設定し、OK または ■ （次へ）を押します。LCPコントローラにロックを設定しない場合は、ロックしないを選択します。

E. パスワードの変更を選択した場合は、 設定するパスワードを入力します。(工場出荷時は0０００になっています). ▲ と ▼ で変更する桁を選択し、◀ と ▶ で数値を変更します。パスワードを入力したら OK または ■ (次へ) を押します。続いて、確認のため新しいパスワードを再度入力し、OK または ■ (完了)を押します。

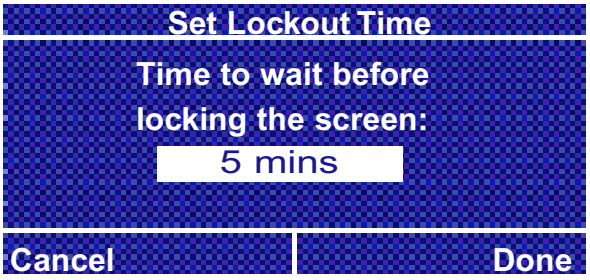
これでコントローラーは、設定した一定時間経過後にロックが掛かります。

注意: *パスワードを忘れた場合は、制御装置のロックを解除するため、Lutron技術サポート (電話番号: 03-5575-8411) までお問い合わせください。*

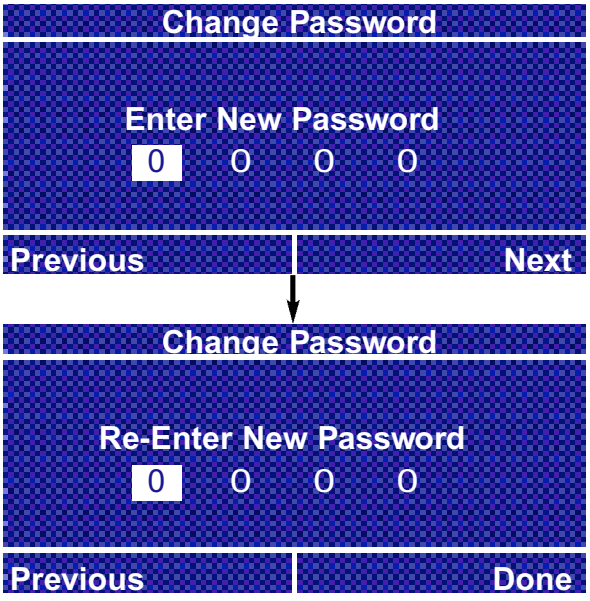
B.



D.



E.



制御装置のロック解除

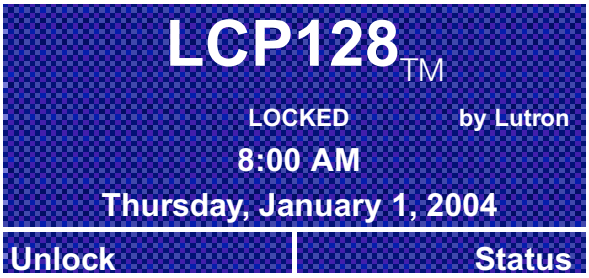
LCPコントローラがロックされた場合は、「ロックされています」というメッセージがホーム画面に表示されます。メインメニューにアクセスするにはLCPコントローラのロックを解除する必要があります。

A. (ロック解除)を押します。

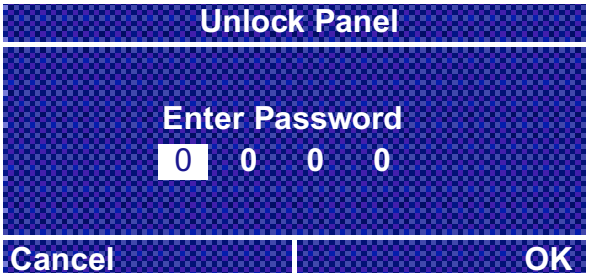
B. と で変更する桁を選択し、 と で数値を変更して、パスワードを入力します。パスワードを入力したら または (OK)を押します。

注意: *パスワードを忘れた場合は、制御装置のロックを解除するため、Lutron技術サポート (電話番号: 03-5575-8411) までお問い合わせください。*

A.



B.



問題点	考えられる原因	対処方法
回路が常にオンまたはオフになっている。	(a) バイパスジャンパーが取外されていない。	(a) 端子ブロックを目視確認してください。金属のバイパスジャンパーが取付けられている場合は、該当するLCP仕様書を参照の上、適切な回路テストとジャンパーの取外しをします。
	(b) LCPコントローラに給電されていない。	(b) LCPコントローラ下部の電源LEDが点灯しているか確認してください。(LEDの位置については本説明書冒頭の「LCPコントローラの概要」をご覧ください)。点灯していない場合は電源が供給されていません。給電を確認してください。
	(c) LCPコントローラが手動制御画面のままです。	(c) ホームボタンを押して手動制御画面を終了します。
	(d) 非常時状態が作動中。	(d) 全てのLCPコントローラ底面にある非常用スイッチを中央の位置に切り替え、非常時機能を無効にします。
	(e) ブレーカーがオフになっている。	(e) 各回路へ正しく電源が供給されるように、ブレーカーをオンにしてください。ブレーカーは*LCP128*盤にありますが、*LCP128*盤がブレーカー無し(フィードスルータイプ)の場合は、別の配電盤にある場合があります。
	(f) LCP盤アドレスが重複している。	(f) 各LCP盤に固有のアドレスがあることを確認してください。ホーム画面にLCP盤アドレスの一覧があります。アドレスを変更する場合は、本説明書ステップ1で詳細をご確認ください。
ブレーカーが切れている。	(a) 回路が過負荷状態。	(a) 負荷導通(電源とニュートラル間)を計測器で測定し、短絡がないことを確認してください。短絡がある場合は、誤配線や負荷の故障を直します。短絡がない場合は、ブレーカーをリセットし、回路の電流を計測します。16A以上の場合は、回路が過負荷状態です。回路を二つに分けて、負荷の少ない照明に変更してください。

トラブルへの対応 (続き)

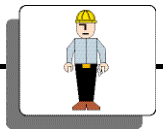
問題点	考えられる原因	対処方法
コントロールステーションのボタンが作動しない。	(a) リンク上でLCP盤またはコントロールステーションアドレスが重複している。	(a) 全てのコントロールステーションアドレスを確認し、アドレス設定が重複していないか確かめてください。詳細については該当するLCP盤の仕様書をご覧ください。
コントロールステーションLEDが点滅している。	(b) コントロールステーションのアドレスが正しく割り当てられていない。	(b) 作動していないコントロールステーションのアドレスが適正で、固有のものであるか確認してください。詳細については該当するLCP盤の仕様書をご覧ください。
コントロールステーションやCCIが作動しないことがある。	(c) ボタンがプログラミングされていない。	(c) LCPコントローラでボタンの機能をプログラミングしてください。詳細は本説明書のステップ3をご覧ください。
コントロールステーションのLEDが点灯しない。	(d) コントロールステーションが無効になっている。	(d) LCPコントローラでコントロールステーションを有効にしてください。詳細は本説明書の「手動制御」の項をご覧ください。
	(e) コントロールステーションリンクに誤配線がある。	(e) 正しい配線については該当するLCP盤の仕様書をご覧ください。コントロールステーションをコントロールステーションリンクへ配線する際にTタップを使用している場合は、2.44mを超えないようにしてください。
	(f) 非常時状態が作動中。	(f) 全てのLCPコントローラ底面にある非常用スイッチを中央の位置に切り替え、非常時機能を無効にします。
コントロールステーションが デフォルト設定どおりに作動しない。	(g) 少なくとも、1つのコントロールステーションがプログラミングされています。	(g) 全てのコントロールステーションを「ステーションなし」に設定します。
LCP盤の接点入力が機能しない。	(a) 入力の開閉が機能しない。	(a) 入力を制御している装置が正しく開閉していることを確認してください。
	(b) 入力が正しく設定されていない。	(b) LCPコントローラで接点入力機能をプログラミングします。詳細は本説明書のステップ4をご覧ください。開閉動作は相互に重複してプログラミングすることができますが、これにより問題が生ずることがありますのでご注意ください。
	(c) 入力が誤配線されている。	(c) 正しい配線については該当するLCP盤の仕様書をご覧ください。

問題点	考えられる原因	対処方法
タイムクロックイベントが作動しない。	(a) LCPコントローラが手動制御画面になっている。	(a) ホームボタンを押して手動制御画面を終了します。
日の出・日没イベントが正しいタイミングで作動しない。	(b) タイムクロックがオフになっている。	(b) タイムクロックをオンにしてください。詳細については、本説明書「手動操作」の項をご覧ください。
	(c) 時刻が設定されていない。	(c) 時刻を設定してください。詳細は本説明書のステップステップ5をご覧ください。
	(d) 日付が正しく設定されていない。	(d) 日付を設定してください。詳細は本説明書のステップ5をご覧ください。
	(e) 所在地が正しく設定されていない。	(e) 所在地を設定してください。詳細は本説明書のステップ5を参照してください。
	(f) 祝祭日スケジュールが実行中である。	(f) イベントの作動しない日が、祝祭日かどうか確認してください。詳細は本説明書のステップ5をご覧ください。
照明が不規則に点滅している。	(a) パネルアドレスの重複。	(a) 各LCP盤に固有のアドレスがあることを確認してください。ホーム画面にパネルアドレスの一覧があります。アドレスを変更する場合は、本説明書ステップ1で詳細をご確認ください。
	(b) コントロールステーションアドレスの重複。	(b) 各コントロールステーションのアドレスが適正で、固有のものであるか確認してください。詳細については該当するLCP盤の仕様書をご覧ください。
	(c) 接点入力が回路を制御している。	(c) システムへの接点入力の状態が安定している事を確認します。全てのLCP盤接点入力および全てのOMX-AVで確認してください。
	(d) コントロールステーションリンクに誤配線がある。	(d) 正しい配線については該当するLCP盤の仕様書をご覧ください。コントロールステーションをコントロールステーションリンクへ配線する際にTタップを使用している場合は、2.44mを超えないようにしてください。
	(e) タイムクロックイベントが作動中。	(e) 不安定な動作が発生している時刻と一致する日または祝祭日にタイムクロックイベントがないか確認してください。祝祭日スケジュールは通常の週間スケジュールに優先します。詳細は本説明書のステップ5をご覧ください。
	(f) 業務時間外モードが作動中。	(f) 業務時間外モードで照明が点滅する場合があります。詳細は本説明書のステップ5をご覧ください。
手動制御画面で調整した回路レベルが維持されない。	(g) DMXが作動中。	(g) コントロールステーション設定画面でDMXを無効にします。

トラブルへの対応 (続き)

問題点	考えられる原因	対処方法
接点出力が動作しない。	(a) LCPコントローラが手動制御画面になっている。	(a) ホームボタンを押して手動制御画面を終了してください。
	(b) コントロールステーションが無効になっている。	(b) コントロールステーションをオンにしてください。詳細については、本説明書「手動操作」の項をご覧ください。
	(c) リンクにアドレスの重複がある。	(c) 全てのコントロールステーションのアドレススイッチを確認し、アドレス設定が重複していないか確かめてください。
	(d) リンクに誤配線がある。	(d) 正しい配線については該当するLCP盤の仕様書をご覧ください。コントロールステーションをコントロールステーションリンクへ配線する際にTタップを使用している場合は、2.44mを超えないようにしてください。
	(e) システムが正しくプログラミングされていない。	(e) 出力を実行する動作を確認し、正しくプログラミングされているか確かめます。詳細は本説明書のステップ4をご覧ください。
非常時モードが作動しない。	(a) 非常時感知線が接続されていない。	(a) 非常時モードを作動させるには、LCPコントローラ上部にある6ピンコネクターの最も右側のピンがLCP盤と接続している必要があります。非常時感知配線の詳細は該当するLCP盤の仕様書をご覧ください。
	(b) 非常時スイッチが正しく設定されていない。	(b) 通常/非常用LCP盤の非常時スイッチは右に設定しておく必要があります。通常/非常用LCP盤の非常時スイッチは左に設定しておく必要があります。
	(c) 通常酔うLCP盤と通常/非常時用LCP盤はそれぞれ1つずつ必要です。	(c) 通常/非常用LCP盤が通常LCP盤の有無を検知します。そのため、少なくともそれぞれ1台はないと、非常時モードは作動しません。
	(d) 非常時レベルがプログラミングされていない。	(d) 非常時レベルをプログラミングしてください。詳細は本説明書のステップ7をご覧ください。
LCD バックライトがオフになっている。	(a) スクリーンセーバーがオンになっている。	(a) LCPコントローラのボタンをいずれか押してください。
	(b) LCPコントローラに給電されていない。	(b) LCPコントローラ底面の「電源LED」が点灯しているか確認してください。点灯していない場合は電源が供給されていません。回路を確認してください。

問題点	考えられる原因	対処方法
RS232コマンドが機能しない。	(a) ボーレートが間違っている。	(a) OMX-RS232のボーレートスイッチが正しいか確認してください。OMX-RS232のボーレートは送信装置のボーレートと一致している必要があります。
	(b) トラブルへの対応の「コントロールステーションのボタンが作動しない。」の項目をご参照ください。	
OMX-CCO-8が機能しない。	(a) OMX-CCO-8のオプションスイッチが正しく設定されていない。	(a) 全てのオプションスイッチはオンの位置になっている必要があります。
	(b) トラブルへの対応の「コントロールステーションのボタンが作動しない。」の項目をご参照ください。	
OMX-AV出力が機能しない。	(a) OMX-AVのDIPスイッチ8が正しく設定されていない。	(a) DIPスイッチ8をオンにしてください。これにより装置が継続的または一時的な接点を扱えるようになります。
	(b) 出力に外部電源がない。	(b) OMX-AVの出力は外部電源からの給電が必要です。(最大30V⎓)
	(c) トラブルへの対応項目の「コントロールステーションのボタンが作動しない。」をご参照ください。	
パスワードが分からない。		(a) LCPコントローラのロックを解除するため、Lutron技術サポートまでお問い合わせください。Lutronの連絡先はこの説明書の最後にあります。
ODMX-512/DMXで照明の制御ができない。	(a) DMXが作動していない。	(a) DMXの作動モードを確認してください。ODMXおよびDMX基盤が接続されていることを確認し(リンクステータス)、対応する作動チャンネルが50%以上であることを確かめます。ステージボードのメインコントロールが100%になっていることも確認します。



補助コントロールとキースイッチ

低刺激性の石鹸溶液(非アンモニア系)を含ませたやわらかいタオルで機器の前面をきれいに拭きます。およそ6ヶ月ごとに清掃を行ってください。

注 意! 洗浄液を直接機器に吹きかけないでください。内部の部品を濡らす恐れがあります。

LCP128™盤

1. 掃除機で通気孔のホコリを吸い取り、空気の流れを遮断する障害物がないか確認してください。LCP盤の前面に305mm以上の空間を確保してください。
2. LCP盤へ配線を追加した場合は、金属片、電線、絶縁材やその他の異物を完全に取除いてから、電源を入れてください。
3. 万一調光装置やスイッチ装置に破損があった場合は、ブレーカーをオフにし、バイパスジャンパーをもどし、ブレーカーをオンにしてください。これにより、照明器具への給電が最大になります。

用語解説

- アドレス設定 - リンク上のコントロール機器がお互いを識別する方法。LCPコントローラのアドレススイッチ1～5を使用し、コントロールステーションに1～32の範囲でアドレスが割当てられます。詳細については、コントロールステーションに付属する説明書か、該当するLCP盤の仕様書をご覧ください。
- 業務時間外モード - 主に、通常営業時間の終了後、ビル内の不必要な照明を消すために使用するタイムクロックモード。まず照明が点滅(点滅カウント)し、まもなく照明がオフになることを知らせます。それから一定時間経過後(時間差オフ)、自動的に照明がオフになります。引き続き照明を点灯させておく場合は(または、再点灯させる場合は)、その照明を制御している補助コントロールボタンを押します。照明は設定した時間引き続き点灯し(お知らせ時間)、その後上記のプロセスが繰り返されます。プロセスは、タイムクロックイベントが業務時間外モードを終了させるまで継続します。
- 接点 入力(CCI) - 回路をつなげるため、二つの接点形式によりシステムに対して行われる入力(無電圧接点)この入力は、ボタンまたはその他のシステムが制御する継電器により行われます。(火災警報器、ビル管理システム)
- 接点 出力(CCI) - 回路をつなげるため、二つの接点形式によりシステムが行う出力(無電圧接点)この出力は、OMX-AVやOMX-CCO-8、ボタン、キースイッチ、タイムクロックイベントなどが行います。
- コントロールリンク- *LCP128*盤に接続したコントロールステーションの一筆書き配線。
- コントロールステーション- コントロールリンク上で低電圧の入力や出力を行う危機。主に補助コントロール、キースイッチ、OMX-CCO-8、OMX-RS232、OMX-AV。
- カスタムシーン - 特定のタイムクロックイベントやボタン操作、接点入力用に指定またはプログラミングされたシーン。
- 時間差オフ- 照明がオフになるまでの猶予時間。回路グループに90分までの範囲でプログラミングします。ボタンを1つ押せば起動できます。
- DMX シアターモード- このモードは回路のエアギャップをオフにし、照明やその他劇場装置が即時に反応するようにします。ただし、これにより電球の寿命が縮り、エアギャップオフによる安全機能が使用できなくなります。
- 非常時モード - システムへの入力全てが無効となり、非常時用として設定した調光や照明スイッチのオン・オフが行われるモード。非常感知線で給電が途切れると起動します。
- 点滅カウント - 照明が点滅する回数。照明が自動的にオフになることを知らせます。
- 祝祭日 - 特定の日付に起動し、設定した日数維持するように設定された特殊なタイムクロックスケジュール。祝祭日スケジュールは通常その日に起動する週間スケジュールに優先します。
- 祝祭日イベント - 祝祭日に起動するよう設定されたタイムクロックイベント。
- LCD (液晶ディスプレイ) - *LCP128*コントローラに内臓され、システム設定に使用される画面。
- LED (発光ダイオード) - コントローラやコントロールステーションの状況を示すランプ。
- 継続と一時- *LCP128* からのCCOは、パルス(一時)または一定(継続)にプログラミングできます。
- NTOMX-KS - キーを必要とするコントロールステーション。キースイッチは時計回りおよび反時計回りでプログラミングすることができます。
- ODMX-512- シアター制御卓やステージボードからのDMX-512入力が最大で32まで可能なコントロールインターフェース機器。
- OMX-AV - コントロールリンクに接続されたコントロールステーションで5つの接点入出力が可能。
- OMX-CCO-8 - コントロールリンクに接続されたコントロールステーションで8つの接点出力が可能。
- OMX-RS232 - コントロールインターフェース機器で、RS232を使用して簡単にビル管理の一体化ができます。
- 開閉動作- *LCP128* へのCCIが接点の開閉により動作するようにプログラミングできます。
- シーン - 回路または回路グループのプログラミングされた設定。ボタンを押したり、キーを回転させるなどして起動する照明効果を作り出します。
- タイムクロックイベント - 特定の日時や、毎日の日の出・日没時(天文時計による)に起動するよう設定された動作。
- 切り替え - 指定した回路のオン•オフを切り替える動作。指定された回路に両方の状態がある場合は(一部がオン、一部オフ)、照明は点灯します。
- 補助ステーション - 壁面に取付けられたコントロールステーション。1つまたは複数のボタンがあり、コントロールリンクへ接続されています。ボタンはシーンの起動や、回路のオン・オフ切り替えをします。
- お知らせ時間 - 業務時間外モードで自動的に照明がオフになるまで、補助コントロールやCCI操作によって照明が点灯できる一定の時間。
- 週間 - 一週間(月曜日～日曜日)の特定の日に起動するよう設定されたタイムクロックイベント。

LCP盤表

表のご使用方法:

- 各パネルの各回路について説明を記入してください。スペアも全て分類してください。
- システムにない回路は取り消し線で消去してください。
- システムの回路番号を記入してください。(*次ページに続きます*)

LCP盤1		
盤回路	システム回路	説明
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
31		
32		
33		
34		
35		
36		

LCP盤2		
盤回路	システム回路	説明
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
31		
32		
33		
34		
35		
36		

LCP盤表

表のご使用方法(*続き*):

- LCP盤1の回路1はシステム回路1です。回路番号は全てのLCP盤で通し番号を使用します。続けてパネル2から4にも番号をつけてください。(該当する場合)

LCP盤3		
盤回路	システム回路	説明
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
31		
32		
33		
34		
35		
36		

LCP盤4		
盤回路	システム回路	説明
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
31		
32		
33		
34		
35		
36		

LCP盤表

LCP盤5		
盤回路	システム回路	説明
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
31		
32		
33		
34		
35		
36		

LCP盤6		
盤回路	システム回路	説明
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
31		
32		
33		
34		
35		
36		

LCP盤表

LCP盤7		
盤回路	システム回路	説明
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
31		
32		
33		
34		
35		
36		

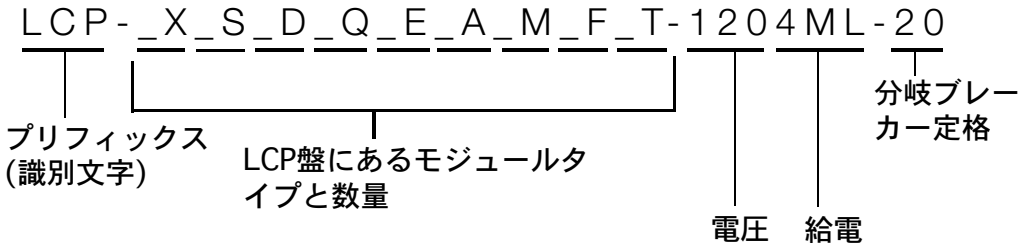
LCP盤8		
盤回路	システム回路	説明
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
31		
32		
33		
34		
35		
36		

モジュールタイプ表

表のご使用方法:
- 各LCP盤の適切なモジュールを記録してください。

LCP128™盤の型番

システムの各*LCP128*盤の型番は、調光盤内のモジュールの数量とタイプを示しています。



モジュールタイプ

X = 4回路スイッチングXPモジュール(XP)
S = 1回路調光モジュール(1U) (日本仕様にはありません)
D = 2回路調光モジュール(2U) (日本仕様にはありません)
Q = 4回路LP調光モジュール(4U)
E = 4回路電子トランス用ELV調光モジュール(4E)
A = 4回路白熱/電子トランス兼用調光モジュール(4A)
M = 4回路モーターモジュール(4M) (日本仕様にはありません)
F = 4回路静音ファンモジュール(4FSQ) (日本仕様にはありません)
T = TVMモジュール(TVM).TVMを使用すると、スイッチや調光モジュールが、0～10V、PWM、DSI、DALI(一斉送信)、10～0V、DIS LOG、DALI LOGの負荷タイプを制御できます。

型番の例:
LCP-2S4Q-1204ML-20
1出力調光モジュール(2S)が2つと、4出力調光モジュール(4Q)が4つの合計6モジュール搭載の調光盤。
搭載されていないモジュールのタイプは、型番には含まれていません。

モジュールは型番に記載された番号の順番で調光盤に搭載されています。調光盤の上部から始まり順に下へ降ります。各調光盤のモジュールを記録し、ステップ1のモジュール設定で使用してください。

LCP盤1		LCP盤2		LCP盤3		LCP盤4		LCP盤5		LCP盤6		LCP盤7		LCP盤8	
モジュール	タイプ	モジュール	タイプ	モジュール	タイプ	モジュール	タイプ	モジュール	タイプ	モジュール	タイプ	モジュール	タイプ	モジュール	タイプ
1		1		1		1		1		1		1		1	
2		2		2		2		2		2		2		2	
3		3		3		3		3		3		3		3	
4		4		4		4		4		4		4		4	
5		5		5		5		5		5		5		5	
6		6		6		6		6		6		6		6	
7		7		7		7		7		7		7		7	
8		8		8		8		8		8		8		8	
9		9		9		9		9		9		9		9	

注意: スペックグレード調光盤のモジュールタイプはGPカードのみです。

負荷タイプ表

表のご使用方法:
- 各LCP盤の負荷スケジュールを確認し、各回路の正しい負荷タイプ設定を記録してください。

全ての*LCP128*盤の回路に(本説明書のステップ1をご覧ください)負荷タイプが指定されている必要があります。各回路で使用できる負荷タイプは、その回路のモジュールによって異なります。使用可能な負荷タイプは次のとおりです。

モジュールタイプ	負荷タイプ	説明
X (XP)	非調光	オン・オフのみの照度切り替え、中間調光レベルなし。
S / D / Q (1U / 2U / 4U)	白熱灯	白熱電球用。
	電磁トランス付きローボルト球(MLV)	電磁トランス付きローボルト球用。
	Tu-Wire	Lutron社Tu-Wire®調光安定器付き蛍光灯用。
	電子トランス付きローボルト球(ELV)	電子トランス付きローボルト球で使用。Lutron NGRX-ELVIインターフェースが必要です。
	非調光	非調光。
E (4E)	電子トランス付きローボルト球(ELV)	電子トランス付きローボルト球で使用。
A (4A)	白熱/電子トランス兼用モジュール	白熱灯、電子トランス付きローボルト球、電磁トランス付きローボルト球、ネオンで使用。
M (4M)	モーター	モーター制御用。
F (4FSQ)	ファン	ファン速度の制御用。
T (TVM)	0～10V; 10～0V	0～10V⎓ 制御付き調光安定器用。
	PWM	PWM調光安定器用。
	Tridonic® DSI; DIS LOG	Tridonic DSI制御付き調光安定器用。
	DALI(一斉送信のみ); DALI LOG	DALI制御付き調光安定器用。一斉送信のみ。
GPカード(スペックグレードのみ)	白熱灯	白熱電球用
	電磁トランス付きローボルト球(MLV)	電磁トランス付きローボルト球用。
	Tu-Wire	Lutron社Tu-Wire®調光安定器付き蛍光灯用。
	電子トランス付きローボルト球(ELV)	電子トランス付きローボルト球で使用。Lutron NGRX-ELVIインターフェースが必要です。
	非調光	非調光。
	Hi-Lume FDB	蛍光灯調光安定器。
	Eco-10	蛍光灯調光安定器。
	Neon	ネオン用。
	TVM loads	上記参照。

システムで電源インターフェースを使用している場合は、*LCP128*コントローラで選択する負荷タイプを下表で確認してください。

負荷タイプ	Lutronインターフェース	負荷タイプ設定	最大接続負荷容量
電子トランス付きローボルト球(ELV)	NGRX-ELVI-JA-WH	ELV	830W
Lutron社Hi-lume®安定器	NGRX-FPB1V-JA-WH	Tu-Wire	1600W
0～10V⎓ 安定器	GRX-TVI	Tu-Wire	信号電流300mA 16A(負荷) 1600W
1600W以下の白熱灯、電磁トランス付きローボルト球、ハロゲン、Tu-Wire	NGRX-PB-JA-WH	白熱灯	

コントロールステーション配置表

表のご使用方法:

- 各コントロールステーションのボタン数と簡単な説明または位置を記入してください。

アドレス	ボタン数	位置・説明
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
31		
32		

コントロールステーション表

表のご使用方法:

- 各コントロールステーションの各ボタンまたは各接点を一行ずつ記入してください。
- 各列の一番上には、回路の説明を記入してください。(*次ページに続きます*)

コントロールステーション/ボタン			動作内容	サンプル			システム回路/説明																				
アドレス	位置・説明	ボタン/接点番号	- シーン - カスタムシーン - アップ - ダウン - 切り替え -時間差オフ(DTO)、分	1 キッチン天井	2 キッチン流し台	3 掃除用具室	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
1	キッチン	1	切り替え	*	*																									
1	“	2	シーン1	80%	80%																									
2	掃除用具室	1	DTO、5			*																								

コントロールステーション表(続き)

表のご使用方法(*続きF3}*):

- 各ボタンと接点の動作と制御される回路を記録します。

システム回路/説明

25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64

タイムクロックイベント表

表のご使用方法:

- 各クロックタイムイベントの日付と時間を各行に記入してください。
- 各イベントの動作と動作する回路を記入してください。

	時刻		動作内容		
曜日/祝祭日	定刻/日の出/日没	時刻	シーンまたはカスタムシーン	業務時間外開始	業務時間外終了

連絡先
保証規定

インターネット： www.lutron.com
電子メール： asuka@lutron.com

米国本社

米国
Lutron Electronics Co., Inc.
7200 Suter Road, Coopersburg, PA 18036-1299
TEL： +1-610-282-3800
FAX: +1-610-282-1243
フリーダイヤル 1-888-LUTRON1
技術サポート: 1-800-523-9466

ブラジル
Lutron BZ do Brasil Ltda.
AV, Brasil, 239, Jardim America
Sao Paulo-SP, CEP: 01431-000, Brazil
TEL: +55-11-3885-5152
FAX: +55-11-3887-7138

南北アメリカ技術ホットライン
米国、カナダ、カリブ諸国: +1-800-523-9466
メキシコ: +1-888-235-2910
中南米: +1-610-282-6701

ヨーロッパ支社

イギリス
Lutron EA Ltd.
6 Sovereign Close, London, E1W 3JF United Kingdom
TEL: +44-(0)20-7702-0657
FAX: +44-(0)20-7480-6899
フリーダイヤル(イギリス): 0800-282-107
技術サポート: +44-(0)20-7680-4481

各国オフィス

フランス
Lutron LTC, S.A.R.L.
90 rue de Villiers, 92300 Levallois-Perret France
TEL: +33-(0)1-41-05-42-80
FAX: +33-(0)1-41-05-01-80
フリーダイヤル: 0800-90-12-18

ドイツ
Lutron Electronics GmbH, Landsberger Allee 201, 13055 Berlin, Germany
TEL +49-(0)30-9710-4590
FAX +49-(0)30-9710-4591
フリーダイヤル: 00800-5887-6635

イタリア
Lutron LDV, S.r.l.
フリーダイヤル: 800-979-208

スペイン・バルセロナ
Lutron CC, S.R.L.
Gran Via del Carlos III, 84, planta 3ª,
08028, Barcelona, Spain
TEL: +34-93-496-57-42
FAX +34-93-496-57-01
フリーダイヤル: 0900-948-944

スペイン・マドリッド
Lutron CC, S.R.L.
Calle Orense, 85, 28020 Madrid, Spain
TEL: +34-91-567-84-79
FAX: +34-91-567-84-78
フリーダイヤル: 0900-948-944

アジア支社

シンガポール
Lutron GL Ltd.
15 Hoe Chiang Road, #07-03 Euro Asia Centre, Singapore 089316
TEL: +65-6220-4666
FAX: +65-6220-4333

中国・北京
Lutron GL Ltd. 北京事務所
5th Floor, China Life Tower
No. 16 Chaowai Street, Chaoyang District, Beijing 100020 China
TEL: +86-10-5877-1817
FAX: +86-10-5877-1816

中国・広州
Lutron GL Ltd. 広州事務所
Suite A09, 23/F Tower A, Centre Plaza
161 Lin He Xi Lu, Tian He District, Guangzhou 510620 China
TEL: +86-20-2885-8266
FAX: +86-20-2885-8366

中国・上海
Lutron GL Ltd. 上海事務所
Suite 07, 39th Floor, Plaza 66
1266 Nan Jing West Road, Shanghai, 200040 China
TEL: +86-21-6288-1473
FAX: +86-21-6288-1751

香港
Lutron GL Ltd.
Unit 2808, 28/F, 248 Queen's Road East
Wanchai, Hong Kong
TEL: +852-2104-7733
FAX: +852-2104-7633

日本
ルートロンアスカ株式会社
107-0052 東京都港区
赤坂1-9-20 第16興和ビル4階
TEL: 03-5575-8411
FAX: 03-5575-8420
フリーダイヤル: 0120-083-417

アジア技術ホットライン
中国北部： 10-800-712-1536
中国南部： 10-800-712-1536
香港: 800-901-849
日本: 03-5575-8411
シンガポール: 800-120-4491
台湾: 00-801-137-737
タイ: 001-800-120-665853
その他の地域: +800-120-4491

Lutron Electronics Co., Inc.
限定保証ルートロン アスカ株式会社は、その裁量により、ご購入より1年間を限度として、部品や製造上欠陥のあるユニットを修理または交換いたします。保証サービスの適用にあたっては、不具合のあるユニットをルートロン アスカ株式会社に返送していただく必要があります。詳細はルートロン アスカ株式会社までご連絡ください。本保証書は単一の明文規定とし、商品化の黙示保証および日本の民法(瑕疵担保)のもとでの黙示保証の適用は購入から1年に限定されます。本保証には、取り付け、取り外し、再取り付け、および誤用や乱用、不十分・不適切は修理に直接起因する損傷、あるいは配線ミス、取り付けミスに関する費用は含まれません。また、本保証は、付随的、間接的に発生する損傷や特殊な損傷をカバーするものではありません。なお、ルートロン アスカ株式会社が、ユニットの製造、販売、取り付け、配送、使用に直接または間接的に起因する損傷に対して請け負う責任は、ユニット本体の購入価格を超えないものとします。本製品は、以下に示すひとつまたは複数の特許により保護されています。4,797,599; 4,803,380; 4,835,343; 4,893,062; 4,924,151; 5,038,081:5,191,265; 5,430,356; 5,463,286; 5,530,322; 5,949,200; 5,990,635; 6,091,205; 6,380,692; DES 310,349; DES 311,170; DES311,371; DES 311,382; DES 311,485; DES 311,678; DES 313,738; DES 317,593; DES 335,867; DES 344,264; DES 370,663; DES378,814; D387,736; D412,315; D412,491; D422,567; D436,930; D453,742; D456,783;D461,782LUTRO

Lutron、Lutron社ロゴ、Tu-Wire、Hi-lumeはLutron Electronics Co., Inc.の登録商標であり、LCP128は商標です。ｳ 2006 Lutron Electronics Co., Inc.

Lutron Electronics Co., Inc.
Made and printed in U.S.A.
P/N 032-151 Rev. B 10/06